

Kavieng

蝟壺屋

アメリカの決断

18禁

nville

Choise

tella

nda

ndov

# 絶対国防圏

艦娘太平洋戦争 第5弾

蛸壺屋

テートクの決断  
絶対国防圏



長門 武蔵 大和



瑞鶴 翔鶴 千歳



鳥海 愛宕 高雄 妙高



長良 五十鈴 川内 阿賀野 鹿島



秋雲 卯月 時雨 雪風



伊8 伊19 Uボート



戦艦 空母 空母(エセックス級) 重巡 軽巡 駆逐艦 潜水艦



1943年(昭和18年) 8月 カリン諸島 トラック島

あおお  
碧々と広がる空  
透き通る美しい海

1300km先の  
ラバウルでは  
激戦が続いてる  
というのに

ここ  
トラック島は  
平和デスネー

そうですね  
姉さん



この午後の静けさを  
破るものといえは  
空母達の  
訓練の音ばかり



翔鶴さんも瑞鶴さんも  
一刻も早く搭乗員の  
練度を上げなさいと  
言っていました



とはいえ

戦争も  
私達のささやかな  
英国海軍伝統  
ティータイムを  
妨げることは  
出来ないの  
デース

おろ？



ほっほー  
あれは

連合艦隊主力が  
戻ってきたデース

43年8月

古賀連合艦隊  
司令長官は

アッツ島救援と  
山本元帥の国葬のため  
内地へ戻っていた  
主力艦隊を再び  
順次トラックへ進出させた



古賀の方針は  
海軍が長年準備してきた  
方法で一刻も早くアメリカとの  
決戦を行うことだった



オー  
長門や扶桑まで！  
遂に第1艦隊  
トラック進出デスカー



お前達  
何だその格好は  
ヒマそうだな



ヒマも何も戦艦は  
『大食らい』だからって  
待機ばかりデース

決戦まで  
やること  
ないですね



誰に向かって  
モノを言うてる

私の闘志が  
2倍になった  
だけのことだ

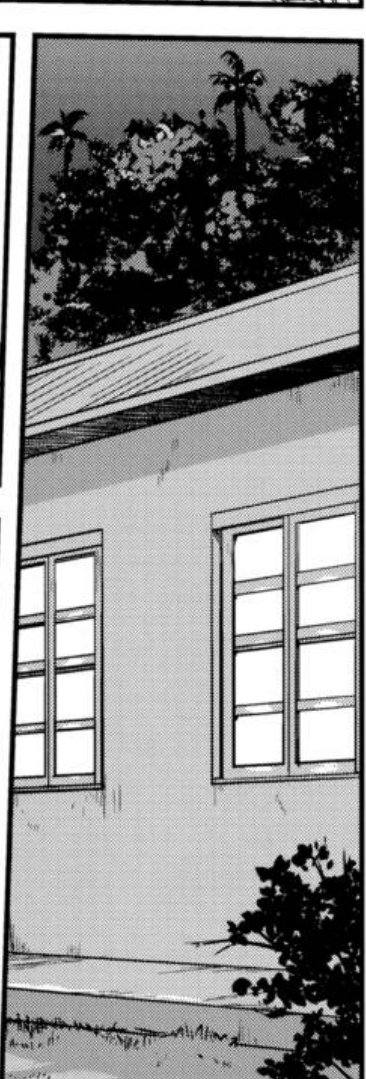


長門…あの  
陸奥は  
残念だったデース

でも長門まで落込むと  
みんなの士気に  
影響するから…

金剛







あの…  
零戦ではB17を  
撃墜できずに  
困っています



まったく  
水雷戦なら  
絶対負けないのに  
悔しいわ  
無いわ

あなたずっと  
舞鶴で修理してて  
最近来たばかり  
でしょ

空母艦載機では  
艦上爆撃機と  
艦上攻撃機が  
高速の新型機へ更新  
される

これもすでに生産が  
始まっている

|  |   |  |
|--|---|--|
| 『99艦爆』<br>1300馬力<br>428km/h<br>250kg爆弾 | ⇒ | 『彗星』<br>水冷1200馬力<br>552km/h<br>500kg爆弾 |
| 『97艦攻』<br>1000馬力<br>380km/h<br>800kg爆弾 | ⇒ | 『天山』<br>1870馬力<br>465km/h<br>800kg爆弾   |

うむ  
すでに武装を強化した  
三菱の新型戦闘機『雷電』と  
雷電の遅れに川西が  
急遽開発した『紫電』の  
量産が始まっている

実践準備が  
整い次第  
前線に出て  
来るだろう

ただ  
どちらも迎撃用の  
局地戦闘機なので  
空母では使えない

|   |   |                            |
|---|---|----------------------------|
| 『零戦』<br>940馬力<br>20mm機銃*2<br>7.7mm機銃*2  | ↓ | 『雷電』<br>1800馬力<br>20mm機銃*4 |
| 『紫電』<br>1990馬力<br>20mm機銃*2<br>7.7mm機銃*2 |   |                            |



雷電開発のずれ込みに  
零戦の改良や  
技師の体調不良も重なって  
思うように進んでないようだ  
まだ設計図の段階だ



零戦の後継機  
十七試艦戦は※  
どうなってますか？



ふむ

原因は  
誰の目にも  
明らかかな  
ようだな

※昭和17年に開発を始めた艦上戦闘機『烈風』

そう  
食料弾薬が  
前線に届かず  
兵が飢えるのも



ジャングルに  
潜むしかなく  
伝染病で戦わずして  
戦力が失われていくのも



夜しか前線に出れず  
艦隊が満足に働けないのも



# 全ては航空戦力の劣勢のせいである

海軍は決戦における航空戦力の  
大幅な強化を決定した



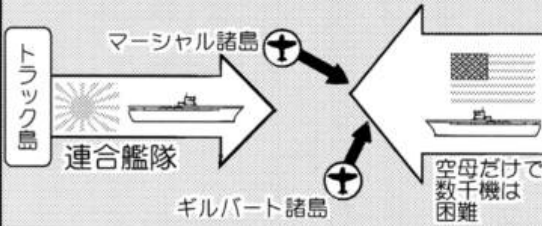
『第1航空艦隊』の司令部を  
7月に再び新設していた

軍令部は今回も航空参謀  
源田実中佐の案を  
採用し

源田の新家は  
一つの航空隊534機を  
三隊合計1600機で  
一つの航空艦隊を構成して

西太平洋の島々を  
不沈空母として配備し決戦時  
には集中させて米空母部隊を  
圧倒するというものだった

最終的には  
航空艦隊を3つに増やし  
5800機で  
『航空戦における  
必勝態勢の確立』を  
果たすとした



二代目『第1航空艦隊』は決戦用に温存するため  
軍令部直轄にして本土で一年掛けて錬成を  
行うこととした

## 軍令部

- 遣支艦隊
- 第1航空艦隊
- 連合艦隊

司令長官には  
二航戦司令官だった  
猛将角田寛治中将が就任した



だがこの時  
戦線の後方でもう一つ  
どんな強硬論者でも  
無視できない単純な  
数字が持ち上がった



今の占領地域を  
維持するには  
船腹(海上輸送力)  
が足りない

43年8月時点で輸送力は  
陸軍120万トン  
海軍148万トン  
民需269万トン  
相次ぐ軍の徴用で  
民間の最低必要量300万トンを  
すでに下回っていた



船腹の不足は太平洋への  
新たな陸軍部隊の輸送において  
感情的対立にまで発展していた

余裕などない  
陸軍は自分の輸送船で  
運ぶのが当たり前だ

こっちは  
海軍の担当地域を  
手伝ってるのだから  
海軍が運ぶべきだろう





陸軍の参謀本部次長は海軍の伊藤軍令部次長に意見を申し入れ率直に語った

ラバウルを含む南東方面を失うのは時間の問題だ  
この際戦線を縮小して反撃拠点を作る方が先決ではないか

私の考えは少し違う  
それに後方を固めるなら当面は今の戦線で時間を稼ぐ必要がある

海軍も船腹不足で後退が必要ということには同意したが古賀長官は早期の「マ作戦」にこだわりトラック島の維持は譲らなかつた

決戦は必ずやる

ラバウルを引き上げた前線に居場所がなくなる

方針が違うなら無理してまで陸軍と合わせることはない



陸軍の方針は長期持久体制の確立だった

そのため米英との開戦後も兵力の大部分は大陸に展開させたまま中国の反日勢力である国民党と共産党との戦いを続けていた

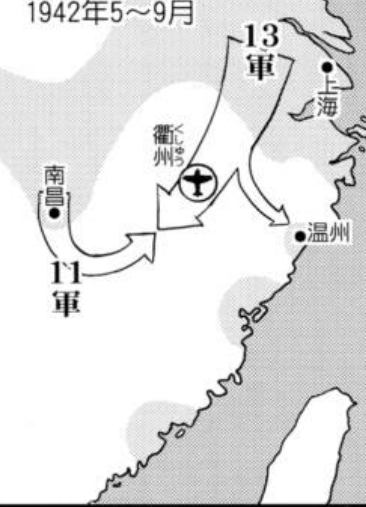
1942年の陸軍兵力



満州ではソ連に備えたが開戦後はむしろ刺激しないように「静謐確保」を指針として軍事行動を控えた

42年5月には東京空襲を行ったドゥーリトル隊が中国浙江省へ逃れたため一帯の飛行場へ大規模な覆滅作戦が行われた

浙贛作戦 1942年5~9月



五号作戦



これで蒋介石に止めを刺す

6月に海軍がミッドウエーで破れた頃参謀本部の田中新一作戦部長はいよいよ国民党最後の砦・四川省へ二期に分けた壮大な侵攻作戦「五号作戦」の準備に取り掛かった

五号作戦から  
第41師団  
第20師団 (ニューギニア)  
第6師団 (ラバウル)

広東23軍から  
第38師団 (ガダルカナル)  
第51師団 (ニューギニア)

引き抜かれた地域では一師団の警備担当が百数十kmにも及び兵力不足が深刻となり大作戦の実行は困難となった

ラバウルに第8方面軍を新設するため五号作戦からも装備が良く練度が高い部隊が相次いで引き抜かれた

ところが8月になると南東方面で予定外のガダルカナルとニューギニアの激戦が始まり

さらに田中新一ら参謀本部の強硬派はガダルカナル戦の方針で陸軍省と対立して東條によって更迭された

ここに日中戦争の総仕上げである四川侵攻は中止となったのである

この馬鹿野郎



その後も中国戦線では小規模な攻勢や共産党ゲリラ(八路軍)の掃討などが続けられた

43年には日本軍の占領地域に食い込んでいた揚子江流域への殲滅作戦などを成功させて8月を迎えていた

同じ頃地球の裏側では

カナダのケベックに  
米英の戦争指導者が集まり

第一回全員会議と言われる  
『ケベック会議』を開いていた



アメリカは参戦以来  
大西洋とインド洋から  
物資と兵器を送り  
同盟国を強力に  
支えていた

英印軍の  
兵器が一新

ドイツの  
カフカス  
攻略を阻止

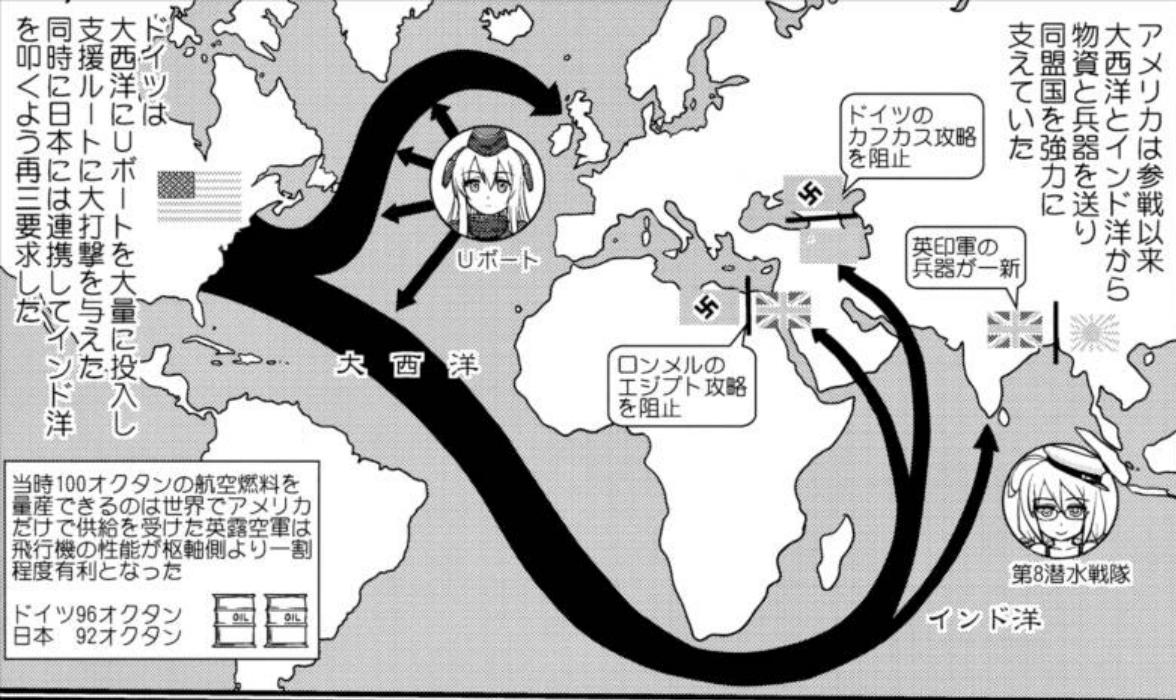
ロンメル  
のエジプト  
攻略を阻止

Uボート

大西洋

インド洋

第8潜水戦隊



当時100オクタン  
の航空燃料を  
産出するのは  
世界でアメリカ  
だけ供給を受け  
た英露空軍は  
飛行機の性能が  
枢軸側より一割  
程度有利となっ  
た

ドイツ 96オクタン  
日本 92オクタン



デーニッツ提督は大西洋で  
働き場を失ったUボートの一部を  
日本と協力してインド洋を叩く  
ために遠征させた大戦中に43隻  
が向かい17隻が到着

その後米英は暗号の解読や  
新兵器の投入、船団運用の改善で  
急速に潜水艦対策を確立  
43年中頃までにUボートは  
逆に狩られる立場となった

だが日本は自衛戦争の  
主旨から外れると  
わずかに数隻の潜水艦を  
投入するに留まった

今インド洋を  
叩かないようなら  
同盟の意味がない！

この間に戦局は転換し  
クルスクとアフリカで敗れた  
ドイツは各地で後退を始めていた

一旦休憩となり英マウントバッテン  
海軍少佐は浮き飛行場用に新開発された  
特殊な水『バイクリット』の強度を  
一同に披露するため拳銃で撃つ  
デモを行った

議長はヒトラーアップでいき  
キング米艦隊司令官と  
ブルック英参謀総長の大声が  
室内に響き渡った

議長のリヒミ海軍大將は悪印象を  
懸念して控えの参謀達を退室させた

ドイツが最優先だ  
むしろニューギニアの  
戦いは一旦止めて  
戦力をフランス上陸に  
回せないか

イギリスは  
インドから攻勢を  
かけて日本の背後を  
突くべきだ

ケベックの連合参謀本部会議では  
アメリカ側がヨーロッパ戦線の  
最も危険な時期は過ぎたとして  
対日反抗を議題に上げたが  
イギリス側は興味を示さなかった

援蒋ルート復活のため  
イギリスのビルマ北部攻略  
アメリカの現地航空部隊の増強  
マウントバッテンの総司令官  
就任などが決められた

もし我々が  
合意に達しなければ  
素人のチャーチルと  
ルーズベルトが勝手に  
決めてしまいませんぞ

双方は欧州優先を確認しつつ  
大陸に日本軍を縛っておくため  
蒋介石への援助強化で合意し

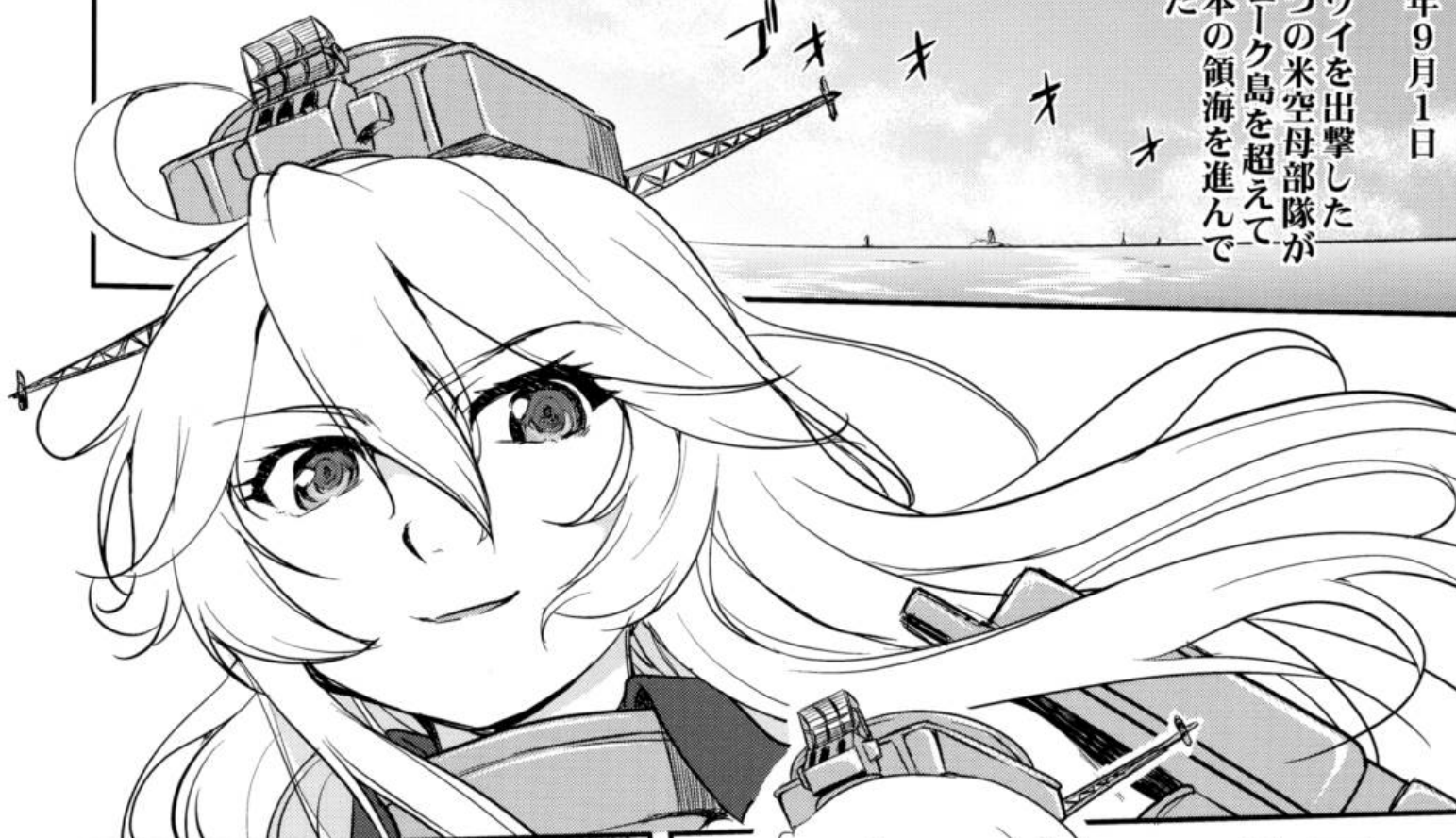
この音を聞いた  
外の参謀達は騒然と  
なった

ヤツら  
とうとう撃ち合いを  
始めたぞ！



43年9月1日

ハワイを出撃した  
一つの米空母部隊が  
ウエーク島を超えて  
日本の領海を進んで  
いた



エセツクス級正規空母  
『エセツクス(CV9)』  
搭載100機



同じ  
『ヨークタウン(CV10)』

※同名一代目

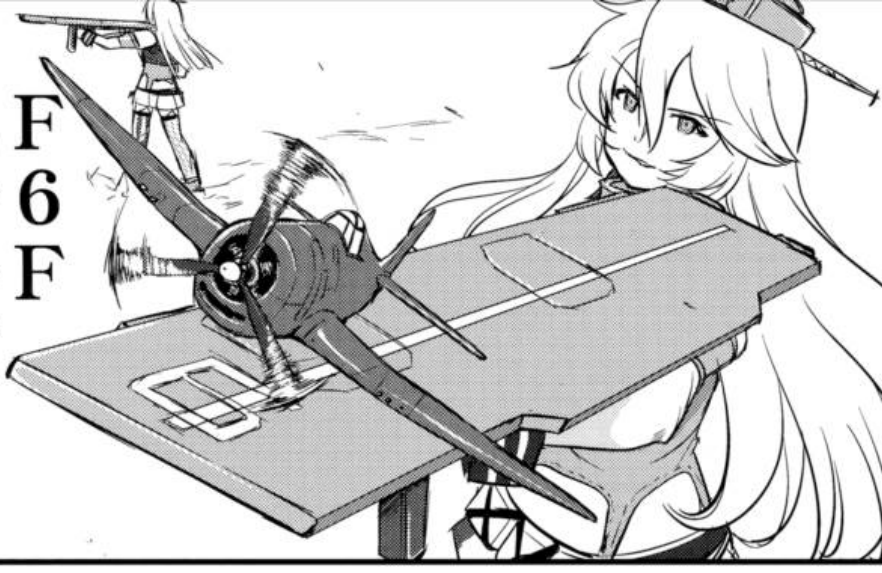


インディペンデンス級軽空母  
『インディペンデンス  
(CVL22)』  
搭載30機

さていよいよ  
初陣ネ

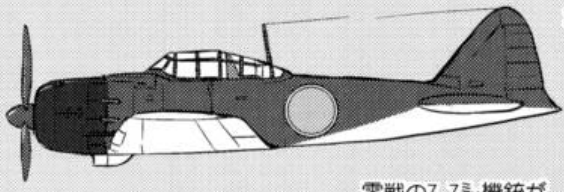
この第15任務部隊の遠征では  
ある新兵器が初めて実戦へ  
投入された

# F6F ヘルキヤット

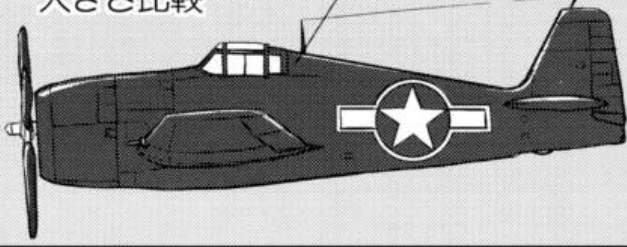


ヘルキヤットはアリユーシヤンで  
鹵獲した零戦の弱点を研究して  
開発された  
最高速を犠牲にしても機体を  
大きく頑丈に作り防弾板も厚くし  
その重量を大馬力エンジンで  
駆動した

**零戦52型**  
1856kg  
1130馬力  
最高速565km  
急降下670km



大きさ比較



**F6F**  
4190kg  
2000馬力  
最高速611km  
急降下800km

零戦の7.7mm機銃が  
貫通しない防弾板

零戦に後ろを取られても急降下  
すれば振り切ることが可能で  
12.7mm機銃6丁の重武装は  
どの角度からでも零戦を撃墜出来た  
ヘルキヤットの登場で前線の  
戦闘機の性能は決定的な差が  
ついてしまった

この重量級のヘルキヤットを  
滑走路が短い軽空母や護衛空母でも  
使えるように射出式の  
油圧カタパルトも開発された



これにより発進時に風上に向かい  
全速で浮力を稼ぐ必要がなくなり  
短時間で大部隊の出撃が可能となつた

第15任務部隊は目的だった  
南鳥島の奇襲に成功



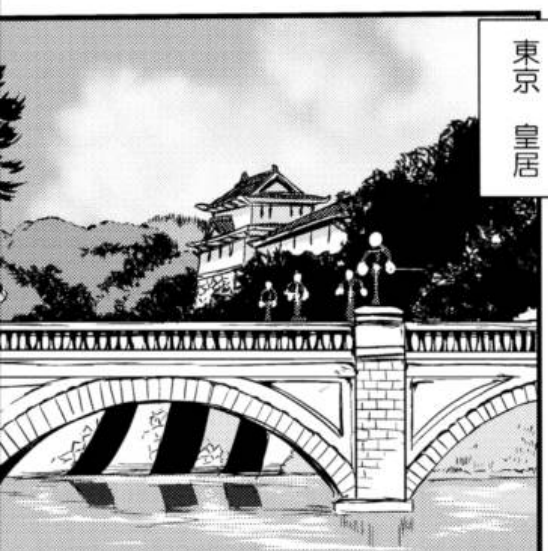
日本軍によって  
要塞化されていた島は  
施設の7割が破壊された

※外周の島の小島に  
なぜか戦車まで  
配置されていた

クレイト



東京 皇居



いづれの方面も  
良くない

今までのように  
ジリジリ押されることを  
繰り返すばかりでは  
同盟国へ与える影響も大きい

いったいどこで  
決戦をやるのか

米軍を  
ピシヤリと叩くことは  
出来ないのか？

開戦前に対米戦は五ヶ月で終わると  
発言した杉山参謀総長は  
恐縮するしかなかった

我方が一ヶ月以上かけて  
飛行場を作るのに敵は数日で  
作るというではないか  
改善の余地はないのか

それは  
敵は機械の力を  
使いますゆえ：

くれぐれモアツツヤ  
ガダルカナルのような  
事にならぬよう

天皇は大本營のアツツ島への  
対応に強い不満を持っていた

次に天皇は連沼侍従武官長に  
海軍への不満も口にしました

一体全体海軍は  
何をしているのだ

我軍は自信を失ってる  
我方から攻撃する  
方法はないのか

最後に天皇の不満は  
首相の東條に向けられた

お前は皇軍は絶対に  
不敗だと繰り返しているが  
敵が上陸するといつも  
負けているではないか

敵の上陸を撃退できた  
ことは一度もない  
どこだと撃退出来ると  
言うのか

陸軍と海軍は本当に  
協力できているのか  
この戦争はいつたい  
どうなるのだ

几帳面な東條はここでも  
多少の譲歩をしても海軍と協同する形をとり  
敵を撃退する線を正式に決定する  
決意を固めた

9月8日

イタリア  
連合国に降伏

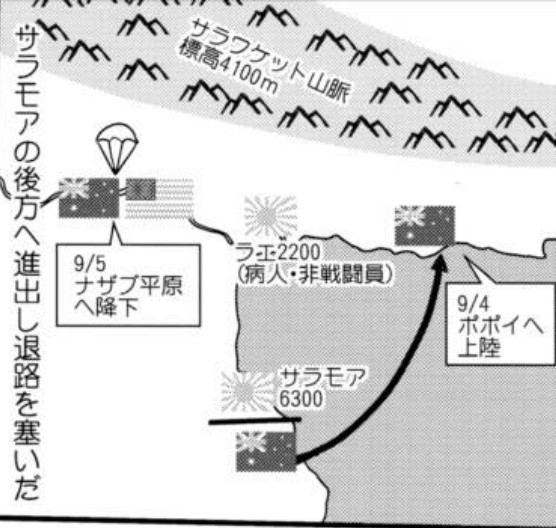
インド洋  
ペナン基地

大井つち  
あれは？

本国が降伏したから  
こっちに来てた  
イタリイ海軍に編入する  
そうですわ北上さん

へー  
ムツソリーニも  
つまらないね

9月4日  
ニューギニアでは制空権を手にした  
マッカーサーが要所だけを奪っていく  
『飛び石作戦』を開始し



9月18日  
今度は別の米空母部隊が  
ギルバート諸島を奇襲した  
エセックス級  
『レキシントン』  
(CV16)  
インディペンデンス級  
『プリンストン』(CVL23)  
インディペンデンス級  
『ペロウウッド』(CVL24)



病人だらけのサラモアの51師団は  
ラエまで後退したが  
海路も平地も押さえられ  
進退窮まり18軍司令部に  
玉砕を願いだした  
だが18軍は許可せず  
サラケット山脈を超えて  
後退するよう命じた  
日本軍は歩けない者を処分し  
重火器を捨て10日分の食料だけを  
持って原住民も通らない険しい  
山道へ進んでいった

ここに9ヶ月間敵と対峙してきた  
ニューギニアの前線は崩壊した

警戒と訓練でマーシャル近海に  
出ている第2艦隊と第3艦隊は  
急遽ギルバート方面に向かった  
出撃よ  
瑞鶴！  
ですわ決戦  
ですわ！

しかし  
空振り  
双方会敵することなく  
米空母部隊はハワイへ帰投した  
ギルバート方面の航空隊は  
奇襲で13機を失ったものの  
まだ100機以上が健在で  
地上の損害も少なかった

京都 舞鶴鎮守府  
意見書を軍令部に  
届けて欲しいと？  
はい出来れば  
作戦課の方へ

9月22日  
南からの進撃に  
備えていた日本軍を  
飛び越えて豪軍は  
次に海上輸送の中継点  
フィンシュハーフェン  
北方へ上陸した  
アント岬上陸  
12000  
10/1  
フィンシュ  
ハーフェン陥落  
20師団主力  
12500  
サラケット  
撤退中  
ラエへの  
道路建設中  
マダンへ  
進軍  
9/16  
ラエ陥落  
9/11  
サラモア陥落  
守備隊  
4000

18軍は死守を命じるが7日で陥落  
だが翌月中旬には援軍の20師団主力が  
険しい道のりを超えて到着した  
以後3ヶ月間この地で攻防戦が続いた



封がしてないようだが  
中を見ても？

どうぞ

『い号作戦』が  
決定打にならず  
山本提督も亡くなった今  
もう勝負はついた

これ以上  
戦争を続ける  
意味はない

決戦に向けて全軍が  
一丸となるべき時に  
こんなものを提出しては  
貴公の為にもなるまい  
私に預けるといふなら  
適当に処分しておくが

ふむ……  
私の意見を  
言わせてもらうなら

これはこのまま  
灰皿へ入れて燃やして  
しまうことだな

お気遣い感謝しますが  
提出願います

それが  
総力戦研究所で  
学ばせて頂いた者の  
義務と考えます

大本営内部からも  
新たな動きが起こっていた  
海軍の源田実参謀と  
陸軍の瀬島龍三参謀は陸海軍の  
合一案を共同で提出した

もはや別々に  
戦っていません  
ではありません

統合参謀本部を  
置き一人の総司令官  
が全責任を負って  
指揮すべきです

反対という訳ではないが  
総司令官はどちらが出すのか  
海軍が陸軍に飲み込まれない  
ようなやり方にしないと

省の統合は憲法上の  
手続きが必要ですが  
大本営の統合なら  
すぐにできます

規模から言っても当然  
陸軍が総司令官を出すか  
海軍は承知したのか？

源田と瀬島は合一方法の  
検討を続けるよう指示された

杉山参謀総長

永野軍令部総長

陸軍大臣を  
兼ねていた東條は  
国家戦略をまとめるため  
航空機の大増産を  
目指す海軍に来年度の  
シユラルミンの三分の二を  
割り当てるなど譲歩して  
戦略の歩み寄りを  
引き出した

そして9月中旬に  
天皇へ上奏するための

『今後採るべき  
戦争指導の大綱』

をまとめ上げた

# 『絶対国防圏』

構想である

海軍がトラック島の維持にこだわったので突出した形となった

## 海軍の解釈



# 絶対国防圏

さらに海軍は国防圏を『そこから打って出る基地』という解釈に含みを残してマーシャルでの決戦思想は変えなかった

敵を防ぐ線という解釈の陸軍とは戦略にズレがあった

絶対国防圏の設定によって南方の島嶼守備隊はかなりの部分が国防圏の外に置かれることになった

この戦争指導大綱を大本営政府連絡会議で諮るに際して前提となる『世界情勢判断』も同時に作成されたが

この時担当した参謀が正直に書いてしまった

不知火の意見書に同意だ



『ヨーロッパでドイツ軍は間もなくソ連のウクライナから突き出され続いてルーマニアの油田地帯も失うであろう』

何だこれは！  
ルーマニアの石油を失ったらドイツは負けるじゃないか  
ドイツが負けるといふことは日本も負けるということだ

上がった東條は書類を見た東條は激しく気分を害した



『明年春頃に太平洋の戦局にも決定的な段階が来るだろう』

決定的な段階とはどういう意味だ  
今から負ける準備をしろということか！

嶋田海軍大臣も目を通すなり激怒した

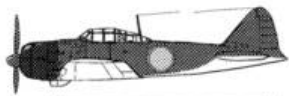
連絡会議には大綱と矛盾するような部分は書き換えられたものが提出された



9月30日  
御前会議が開かれ大綱は裁可された

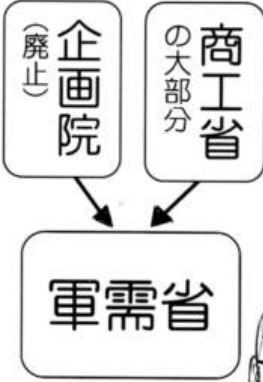


海軍は東條の譲歩を受け来年度の航空機生産で3万2千機という大幅な生産増を要請した  
陸軍も同じく2万6千機を要請し合計は6万機近い膨大な数となった



| (生産実績) |        |
|--------|--------|
| 41年    | 5088機  |
| 42年    | 8861機  |
| 43年    | 16693機 |
| 44年    | 6万??   |

首相兼陸軍大臣  
兼軍需大臣



東條は航空機の大増産のために陸海軍の航空機生産を一元化する『軍需省』を新設して軍需大臣は自ら兼任した

船腹の不足は民間からさらに25万トンを徴用して当面を凌ぐこととしたが根本的な不足を解消するために構造を簡略化した輸送船の増産も始まっていた

だがこの『第二次戦時標準船』は生産数優先のあまり、船としての基本部分まで簡素化された。その結果低速すぎて潮に流されたり、岩に座礁しただけで沈没するなど『轟沈型』と揶揄された



第二次戦時標準船

これら航空機や輸送船の大増産はひとえに南方からのくらしの原材料を運んで来れるかに掛かっていた

航空機の生産要求は過大だが努力するので海軍も海路の護衛をしっかりとやって欲しい

そこで海軍は海上護衛専門の組織『海上護衛総司令部』の設置を決定した





9月18日～30日  
絶対国防圏がはるか後方となり  
米軍も上陸しなかつたこと  
ソロン方面ではコロシバンガラ島  
から撤収する『セ』と作戦が行われた



ガ島に匹敵する大人数の撤収だったが  
距離も近く海戦続きでソロモン  
米艦艇が減っていたこともあり



が駆逐艦へ移乗または大発でチヨイ  
スル島へ辿り着き夜間に海岸線を  
伝ってフィンまで無事撤収した

第一次撤収作戦で  
28日5000名  
29日30日11000名

散発的な戦闘で大発  
数隻を失ったものの



『セ』と作戦』は損害も少なく  
見事な成功に終わった

舞風  
ボクら撤退  
上手くなったよね

嬉しくない  
な！



10月1日～2日 第二次撤収作戦  
日本の撤収を察知した米軍は  
第31任務部隊の駆逐艦6隻で  
哨戒を行っていた

これが最後です  
大発のまま  
向かって下さい

駆逐艦同士の撃ち合いも生じたが  
今度も撤収は成功  
残る部隊全てが島を撤収した



10月6日  
第3水雷戦隊の同メンバーは  
三度目の撤収作戦に  
出撃した

チェツ  
見つかつた  
さすがに警戒が  
強化されてるか！



すでに撤退命令を  
出してしまいました  
やらせて下さい

こんな  
朝令暮改が  
許されるか！

これにはフィンから第8艦隊の  
参謀が飛んできて撤収を懇願した



コロシバンガラ島の撤収が終わる  
前線に残されたベララベラ島では  
日本軍守備隊629名が米軍と交代した  
豪軍に追い詰められていた



敵  
巡洋艦3隻

待った  
雨さん達  
じゃないのか



20時30分  
突入した日本軍は米軍の2つの  
駆逐部隊のうち片方と遭遇した

第3水雷戦隊

『秋雲』『磯風』  
『風雲』『夕雲』

『時雨』『五月雨』

第4駆逐部隊  
『シャウアリエ』  
『オバロン』  
『セルフリック』

ベララベラ島

レクターで補足していた米軍は先に攻撃を開始



撃ってきた敵だ!

最後尾で敵に一番近かった『夕雲』はすぐに魚雷8本を発射



『シャヴァリア』は一本命中し大破させたが自らも集中砲火を浴び火災を起こした

砲雷撃戦が激しくなる中大破したシャヴァリアは『オバノン』が衝突してシャヴァリアは沈没した



夕雲も速度が低下したところ、追い打ちの魚雷が命中し沈没した

この時『時雨』『五月雨』も戦場に到着、砲雷撃を開始した



時雨の放った魚雷は残る旗艦の『セルフリッジ』に命中、大破したセルフリッジは撤退した

米駆逐群はわずか10分の戦闘で沈没1、大破2と壊滅状態となった

秋雲達は追撃に移ったが視界不良で中止となった所へ輸送部隊が突入し島の兵員全てを収容してブインへ引き上げた

ともあれ作戦は成功

少しはペラ湾での萩風達の仇を討てたかな

今回も戦果は巡洋艦3隻沈没と過大に報告されたが一連の撤退作戦は『日本の水雷戦隊未だ健在なり』を印象づける戦いとなった

### 第二次ペララペラ海戦



うッ

ホールドアップ! JAP

アーユー スレンダー!?! (降伏するか)





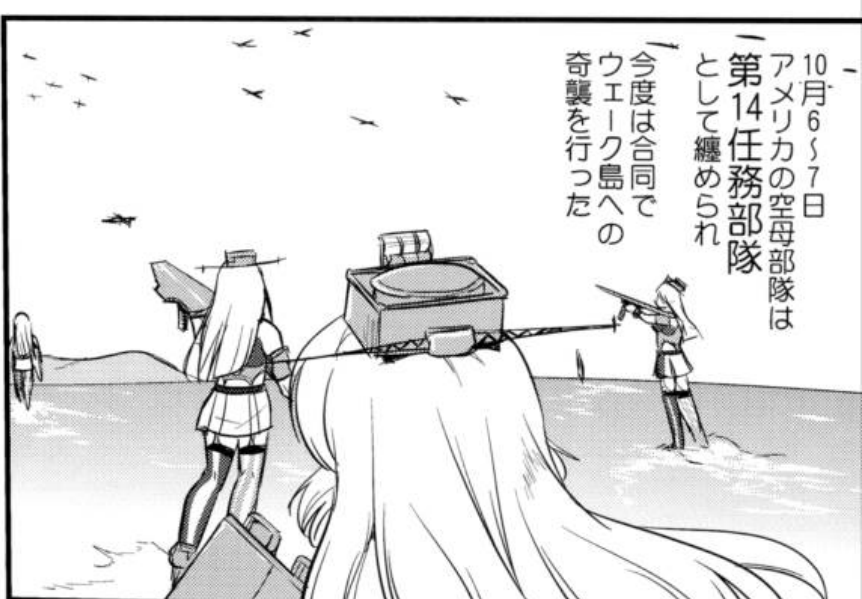
スレンダー？  
(降伏)  
ノー！  
ノー！  
生きて  
虜囚の辱め  
を受けず  
撃ちなさい！  
艦娘の死に様  
見せてあげます



え…  
水と食料…？



エセックス級5隻目  
『イントレピッド(CV11)』  
竣工していた  
米空母はすでに9月末までに  
エセックス級5隻  
インディペンデンス級7隻が  
竣工していた



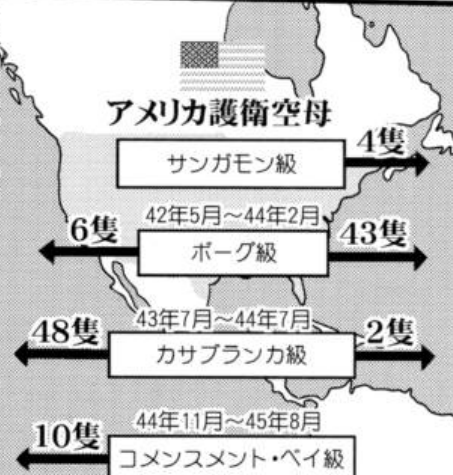
10月6〜7日  
アメリカの空母部隊は  
第14任務部隊  
として纏められ  
今度は合同で  
ウエーク島への  
奇襲を行った



ウエーク島の空襲は成功し  
島の日本軍は大きな損害を受けた  
しかし備蓄食料が焼失して  
食糧事情が悪化したことに加え  
島内での反米軍感情も強まり  
捕虜98名の殺害事件が起こる原因  
ともなってしまった

いわゆる『週刊空母』の  
始まりである

広大な太平洋のシーレーンを守る  
ためにカサブランカ級は急ピッチで  
生産され1年間で50隻が竣工した



さらに  
これまで大西洋に送られ続けた  
小型護衛空母(搭載28〜30機)だが  
カサブランカ級からは太平洋に  
本格投入されるようになった





翔鶴姉エは

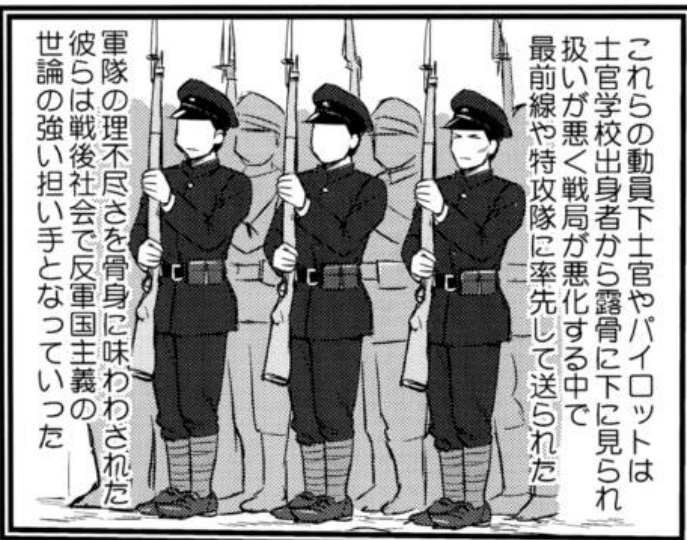
よく  
頑張ってるよ

もっと



ハイハイ  
私が適当だから  
責任感の強い  
翔鶴姉エが一人で不安な  
思いをしているのは  
分かっているよ

加賀さん達が  
沈んでから1年半  
正規空母はずっと  
私達2人だけだもんね



これらの動員下士官やパイロットは  
士官学校出身者から露骨に下に見られ  
扱いが悪く戦局が悪化する中で  
最前線や特攻隊に率先して送られた  
軍隊の理不尽さを骨身に味わされた  
彼らは戦後社会で反軍国主義の  
世論の強い担い手となっていた



軍部は国防圏の構築に向けて  
軍の規模拡大が急務となっていた  
特に下士官やパイロットを  
すぐに用意するため飲み込みの早い  
優秀な人材が必要だった  
政府は高等教育を受けている学生に  
目をつけ文系学生の動員を始めた  
今や見敵必殺の  
銃剣をひつ提げ  
積年忍苦の  
精進研鑽を挙げて  
悉くこの光栄ある  
重任に捧げ  
挺身以て頑敵を  
撃滅せん  
10月21日 明治神宮外苑にて大々的に  
『学徒動員』の壮行会が行われた

『敵機動部隊  
マーシャル方面  
来襲の算大なり』



大佐  
解析の結果  
です

これは！  
あたちに軍令部  
へ連絡を

10月16日  
トラック停泊中の『武蔵』艦内で  
通信解析を行っていた特務班が  
ある情報を掴んだ



暗号解読は開戦以来  
アメリカにやられっぱなしだった  
日本の海軍でも行われてはいたが  
大型計算機もなく人数も多くない  
状況で総当たり解読は  
成果が上がらなかつた  
軍令部特務班  
埼玉大和田通信隊所  
そこで軍令部の特務班は  
敵の通信の方向や頻度や形式から  
内容を予測する『通信解析』  
という手法に力を入れていた

# 決戦の時は来た

# 『乙作戦』発動 出撃するぞ！



ようやく決戦か  
待ちかねたぜ

ホテルや御殿なんて  
言われるのは  
もうおしまいです

気にしてたんですね

出来れば十分  
訓練を積んでから  
やりたかった...

こうなったら  
やれるだけ  
やるしか無いわ

10月17日 トラックの  
連合艦隊は総力を持って  
マーシャル方面へ出撃した

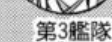
帝国海軍の伝統に則り  
古賀司令長官自ら旗艦  
『武蔵』に乗り込んでいた



だが西へ進んでいた米艦隊は  
途中で進路を変えて  
ソロモンの方へ南下して行った

(第14改め) 第50任務部隊

マーシャル諸島 ●



ええい  
敵はどこだ!  
偵察機はまだ発見  
できないのか

やること無いなら  
訓練したいので  
武蔵さん標的役  
お願いできますか?



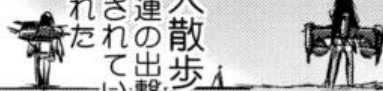
# またしても 大空振り

古賀長官は4日間  
虚しく敵を探し続け  
10月26日トラックに  
帰投した

『連合艦隊の大散歩』と  
陰口を叩かれた一連の出撃で  
トラック島に備蓄されていた  
決戦用燃料は失われた

古賀は50万トン(海戦分の)  
燃料を至急送るよう海軍省に  
要請したが国内にも備蓄は  
30万トンしかなく連合艦隊は  
早くも12月まで全力出撃が  
できない状況となった

この一件で特務班の  
信用はガタ落ちした



10月27日

連合軍は次のブーゲンビル島攻略に向け日本軍の注意を正面に引くため陽動上陸を行った

チョイセル島 725 上陸

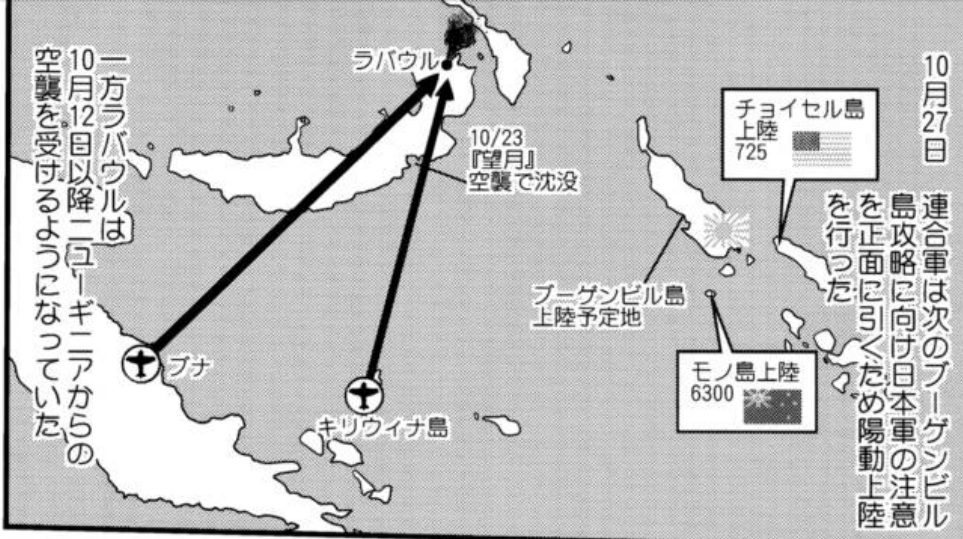
モノ島上陸 6300

ブーゲンビル島 上陸予定地

ラバウル

10/23 『望月』空襲で沈没

一方ラバウルは10月12日以降ニューギニアからの空襲を受けるようになっていた



玉碎していた方が楽だった...

10月中下旬 サラフケット山脈を3週間かけて超えてきた51師団が少しづつキアリへ到着した 餓死、転落死、氷点下となる山頂付近で凍死などで8500名中10000、20000名が脱落していた

全員が栄養失調で10000名はすぐ入院が必要な重症という惨状だった



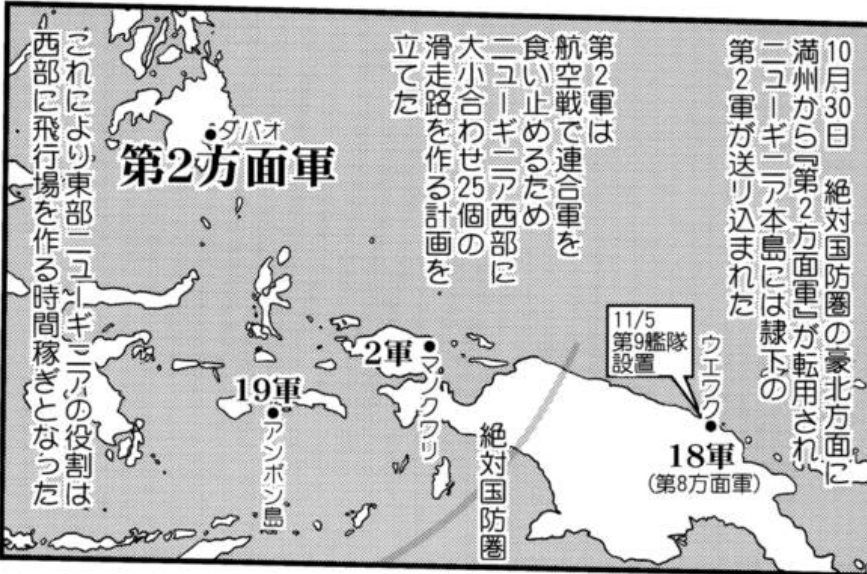
10月30日 絶対国防圏の豪北方面に満州から『第2方面軍』が転用され、ニューギニア本島には隷下の第2軍が送り込まれた

11/5 第9艦隊設置

18軍 (第8方面軍)

第2軍は航空戦で連合軍を食い止めるためニューギニア西部に大小合わせ25個の滑走路を作る計画を立てた

### 第2方面軍



Z作戦が空振りに終わった古賀長官はラバウルの空襲が始まったので山本の作戦を真似て母艦航空隊と基地航空隊を総動員して『3号作戦』を発動した



### 第3艦隊は猛反対した

これまでラバウルからの派遣要請を断って訓練を続けてきた無傷の唯一航戦180機は今や米機動部隊に唯一対抗できる切り札になっていた

また航空隊の引き抜き!

こんなことしてたらいつまで経っても機動部隊の戦力は整いません



11月1日 連合艦隊が3号作戦の準備に入ったその時

ソロモンでは米軍がブーゲンビル島に飛び石上陸して飛行場を作り始めた



タロキナには少数の日本軍がいるだけで上陸軍にすぐ撃退された陽動に引っかけ南部の飛行場での戦いを予想していた日本は完全に虚を突かれた

だが前日夜に島へ近づく上陸船団を発見していた海軍はラバウルから襲撃部隊を出撃させた

もうラバウルの目の前だ

また撃退してやるわよ

待てお前達



川内さん 妙高さん 羽黒さん

今度撤退作戦や護衛じゃなくて攻撃だ

私たちが巡洋艦の出番だな



日本の襲撃部隊は南下して  
ブインの先まで出たが  
敵と遭遇しなかつた



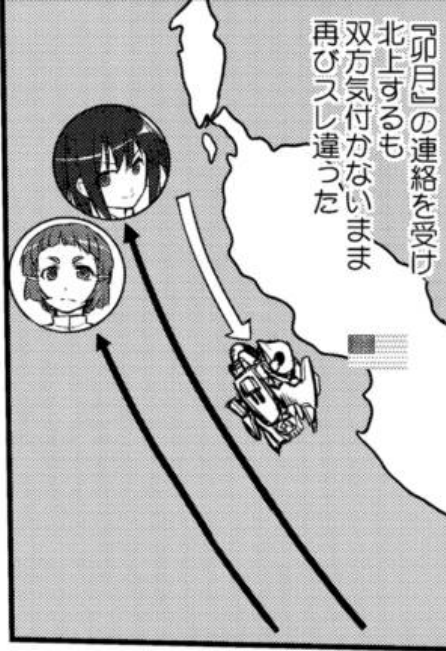
今  
ブカ島が砲撃  
受けてまアッす

居ないな

第5戦隊

第3水雷戦隊

『卯月』の連絡を受け  
北上するも  
双方気付かないまま  
再びスレ違った



ホントに船団が  
いるのか？

明るくなってきました  
一旦ラバウルに  
引き上げましょう



11月1日の夜が明けると  
敵が実際に上陸していることが  
判明した



第8方面軍の今村將軍は  
上陸地点に夜間逆上陸部隊を  
送り込む決定をした  
日中はラバウルから  
航空隊が攻撃に向かったが  
レーダーで補足され迎撃を受け  
ほとんど戦果なく20機を失った

南東方面艦隊は  
陸軍の逆上陸に合わせて  
全力の夜戦を挑む決意を固め  
ちようと輸送任務でラバウルに  
来た第10戦隊も  
襲撃部隊に加えた



海戦ですか！  
行きます行きます！

日本の船団は夕方にラバウルを  
出撃したが途中で爆撃を受けたため  
足の遅い逆上陸部隊は引き返し  
襲撃部隊のみが夕刻キナへ突入した



敵に見つかったが  
夜戦になれば  
負けん

電探が  
心配だな...

ソコモンで回本海軍と戦ってきた  
メリル少将は軽巡部隊の左右に  
駆逐隊を配置する三隊態勢で  
これを迎え撃つた



今回もレーダーで敵を発見した米側が  
先手を取り先頭を進んでいた川内に  
いきなり砲火を集中させた



わッ！  
川内さん  
ぶつかる！

0時51分  
後続の『時雨』ら駆逐隊は  
衝突回避しつつ雷撃を行い  
一発を駆逐艦『フート』に  
命中させ航行不能にした

だが『五月雨』と『白露』は  
隊列が乱れ衝突して  
しまった





動けなくなった川内は  
集中砲火を受け続けた

チツ  
これじゃ  
仇討ちどころか  
神通の二の舞い  
じゃないか



同じくレーダーでの  
先制射撃を受けた  
『妙高』『羽黒』は  
回避行動を続けていた



重巡が何を  
逃げ回ってるんです

撃ち合ってください!!



1時07分 妙高は  
右側を進む『阿賀野』の列に  
突っ込んで『初風』と衝突した  
初風は航行不能となった



1時18分  
戦闘が始まって30分後  
ようやく吊光弾で戦場を照らし  
敵を捉えた妙高と羽黒は  
砲雷撃を開始した



ヌリル少将は軽巡部隊に  
反転を命じたがその間に  
『アンバー』に不発弾が  
3発の命中した

一番艦に命中弾数発  
二番艦雷撃で轟沈  
三番艦雷撃で火災発生

司令官の大森少将は  
煙幕を張って逃げる敵を見て  
数隻を撃沈したと判断して  
襲撃部隊に帰投を命じた  
各艦はバラバラになったまま  
それぞれ帰投を始めた



反転する日本軍を見た米駆逐艦は  
追撃しようとしたが  
こちら『スヘンス』と  
『サッチャー』が衝突した



さらに妙高達を誤認して見逃し  
味方を砲撃するなど混乱した

追撃を諦めた  
米駆逐艦7隻は

戦場に  
取り残された  
『初風』と『川内』に  
向かって集中攻撃を加え  
まず初風を撃沈



フツ  
長く戦ってきた  
割には

さえない  
最期だ...



私と神通の仇は  
きつと那珂が：

……いや

アイツはダメだな  
……そんな  
ガラじゃない

5時30分  
一人残された川内は  
静かに沈没した

ブーゲンビル島沖海戦



ラバウルに戻った大森司令官は  
『撃沈又は確実』重巡4駆2  
損傷 重巡2駆2  
などの戦果をトラツクへ報告したが  
海戦の経過を聞いた古賀長官は憤慨し  
大森少将を更迭した

何たる稚拙な  
戦い方だ

妙高姉さん  
初風の髪が：



まだ上陸した米軍を叩くという  
目的が果たされてないため  
古賀長官は『3号作戦』に合わせて  
強力な重巡部隊で上陸点を強襲  
する決定をした



これを『3号作戦』と名付け、  
トラツク島に停泊中の第2艦隊を  
ラバウルに向かわせた

ラバウルの南東方面艦隊は  
反対した

なぜ空襲が  
激しくなってる  
ラバウルに水上部隊を  
派遣するんだ？

来ない方が  
いい



『3号作戦』開始

11月2日  
まだ川内が辛うじて浮いている  
4時35分に

予定通り初日の107機が  
米39任務部隊を  
追撃するため  
出撃した



米軍は16機が迎撃  
『撃沈巡1駆1 撃破輸1』の戦果を報告  
したが実際は軽巡『モンテリリア』に  
僅かな損傷を与えたのみだった  
日本は6機を失った

『1号作戦』の時と違い  
米軍はすくさま反撃を行った

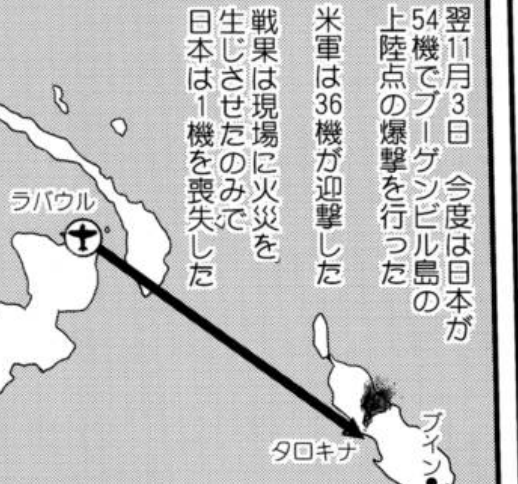
11時40分に160機がラバウル空襲に現れ  
日本は一航戦の戦闘機など  
16機が迎撃に飛び立った

どっちが  
勝ってるのか  
分かんないなあ

煙を吹いて  
落ちていくのが  
アメリカで

パツと  
オレンジ色に光って  
落ちるのが我軍だよ

互角の大空中戦が展開され、  
米軍17機、日本軍18機を失ったほか  
湾内の小型船舶15隻が沈没した



翌11月3日 今度は日本が  
54機でブーゲンビル島の  
上陸点の爆撃を行った  
米軍は36機が迎撃した  
戦果は現場に火災を  
生じさせたのみで  
日本は1機を喪失した

第2艦隊のラバウル接近は  
すぐにハルゼーに知らされた

一斉に来たら  
とても防ぎきれん  
司令官就任以来  
最も厳しい状況だ

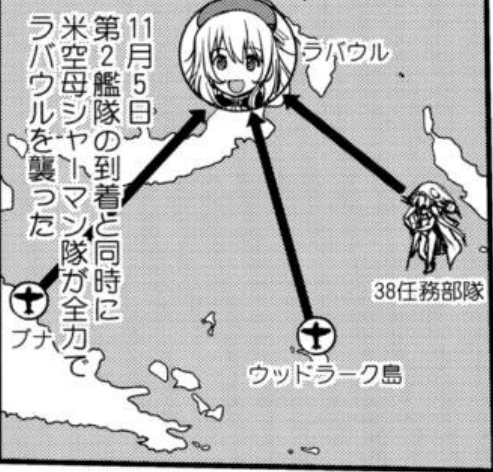
手元には連戦で  
疲れきった39任務部隊と

ギルバート方面の作戦から  
20日までの条件で借りた  
『サフトガ』と軽空母1隻の  
38任務部隊しかなかった

いっそこちらから  
先に空母で艦隊を  
攻撃しましょう

…やるか

第三次ソロモン海戦の時に  
匹敵するリスクがあると思っただ  
が  
『ラール』ハルゼーは決断した



11月5日  
第2艦隊の到着と同時に  
米空母シヤーマン隊が全力で  
ラバウルを襲った

空襲警報！

給油始めた  
ばかりです

多いぞ！

日本は76機が迎撃に飛び立った

この時空母から飛び立ったのは  
これまで爆撃に来ていた米陸軍機の  
B25とP38ではなく



『愛宕』至近弾3発被弾  
艦長戦死



『高雄』被弾11発  
大破孔



『摩耶』被弾  
火災発生



『最上』被弾  
火災発生



『筑摩』被弾4発  
損傷



『阿賀野』被弾  
高角砲使用不能



他に駆逐艦  
『藤波』『若月』『早波』『天霧』  
が損傷した

日本は6機 アメリカは10機を失った

日本は夕方に18機が薄曇り攻撃で  
米空母へ反撃に向かったが  
戦果はななく4機が未帰還となった



しかし翌日大本営は  
『ノーガンビル島沖航空戦』  
撃沈 空母2 巡洋艦4と発表した

栗田提督率いる第2艦隊は次の空襲を恐れ翌日から11日に掛けて何の成果もなくトラックへ逃げ帰っていった

わざわざやられるために来たの…

こんなブザマな行動悔しい…

ハハハハハハハハ

最高だ！いや最高のその上だ



栗田艦隊が空襲を受けた同じ日 11月5日 東京では支配地域のアジア各国代表を集めた 『大東亜会議』 が開催されていた



これは東郷外相の後任となつた重光外相が東條に提案したもので

アジアの開放を掲げる日本が植民地のままにしておくのはおかしい

それもそうだ

5月の御前会議でフィリピンやビルマの独立と共に決定されていた

ドイツで冷遇されながらインド独立運動を行っていた活動家チヤンドラ・ボースは5月訪日し東條と面談した

インド独立は大東亜共栄圏の理念に叶うものだ

東條はボースを気に入ってオプザーバーとして会議を招いた



アメリカやイギリスは大東亜会議を冷笑した 傀儡政権のプロパガンダに過ぎない

だが東條は例によって几帳面かつ大真面目に取り組んだ

ともかくも白人以外の国の代表が集まって国際会議を行うということ自体が史上初だったので

数年前は夢だったものが今実現しようとしている

10億人のアジア人が新しい世界を行進する

その中に永遠に自由で繁栄する永住の故郷を見つけるだろう

各国代表によるスピーチは熱気を帯び感動的なものとなった

しかし南方資源地帯のマレー・ホルネオ・インドネシアの代表は呼ばれていなかった

- 中国 (汪兆銘)
- 滿州 (張景惠)
- フィリピン (ホセ・ラウレル)
- ビルマ (パー・モウ)
- タイ (ワン・ワイ・タヤ・ヨー)
- インド (チヤンドラ・ボース)



東條は主催者として各国代表に慈悲深い父親のようには接し、心から満足できるように見えた

2日間に渡る熱狂と感動にあふれた大会の最後に

『共存共栄の新秩序の建設 各国自主独立の尊重 互いの伝統文化の尊重 文化交流と資源の解放 人種差別の撤廃』

という大東亜共同宣言が満場一致で採択された

軍の幹部たちは当惑していた

東條は何を考えてるんだ

おかしくなっちゃったのか

ボースは日本の捕虜になっているインド人で「インド国民軍」を組織し日本軍のインド作戦に参加した

インド独立は不服従ではなく武力によってのみ達成される



11月7日  
ブーゲンビルへの逆上陸は  
結局第10戦隊の  
『阿賀野』と駆逐隊が  
密かに揚陸を  
成功させた

上陸部隊はブインからの  
部隊と共に攻撃に移ったが  
2日間の戦闘で逆に押し返され  
補給や増援もなく  
11日には攻撃を中止し撤退した



第10戦隊

17軍  
第8艦隊

ブイン

11月8日  
輸送船団を発見した日本軍は  
97機が出撃

50任務部隊

米軍は上空護衛の60機が迎撃

報告は『撃沈 駆3輪2』だが  
実際は火災1隻のみで19機を失った

ラバウル

夕方には薄暮攻撃で15機が出撃  
軽巡『ハーミングハム』を大破させた  
報告は『撃沈 戦艦3 巡1 駆1 哨で  
7機を喪失した』



戦果があったため  
さらに追撃で11機を出撃させたが  
今度は戦果なく3機を喪失した  
大本営はこの日の戦いで  
『第二次ブーゲンビル島沖航空戦  
撃沈 戦艦4 巡2 駆10 輪4  
撃破 戦艦1 巡駆10 輪1 撃墜15』  
という大戦果を発表した

一方ハルゼーは空母艦載機による基地  
攻撃が予想以上の大戦果を上げたので  
返還期限の20日前にもう一度  
航空兵力は前回の  
3倍だ

38任務部隊  
『サラトガ』  
『プリンストン』

ラバウル

50任務部隊  
『エセックス』  
『ヘローウッド』  
『インディペンデンス』

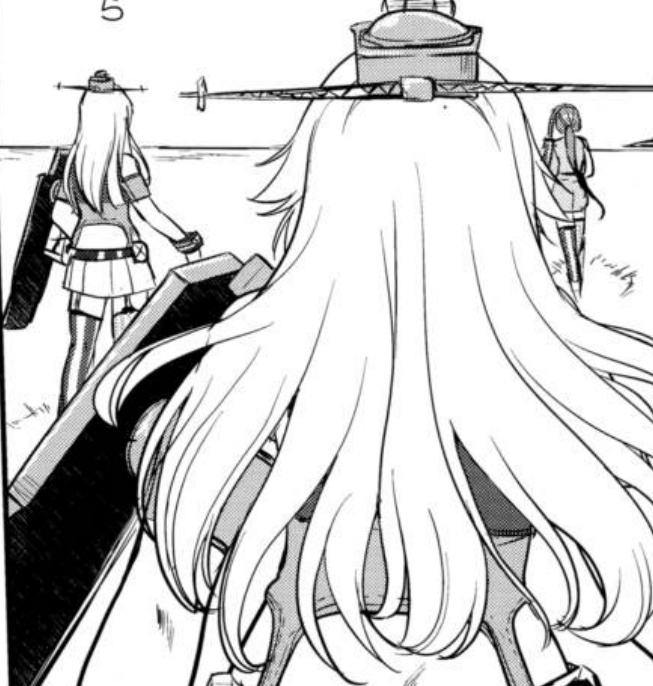
さらに大規模な攻撃を計画し  
ギルバート方面から追加で  
エセックス級空母部隊の派遣を受けた



11月11日  
再び空母による  
ラバウル空襲

北側サラトガのシャーマン隊が  
霧とスコールで引き返したため  
予定から三分の一が減少したが

主力の南側エセックス級2隻から  
185機が飛び立ち7時05分に  
ラバウルに襲いかかった



日本は107機が  
迎撃に飛び立ったが  
11機が撃墜され  
『涼波』が沈没

『長波』が雷撃で  
大破 航行不能  
同じく『阿賀野』も  
大破 航行不能

たまたま  
南東方面艦隊  
草鹿龍之介参謀長は  
命令を出した

第2水雷戦隊  
第10戦隊  
他の艦もトラックへ  
退避しろ!

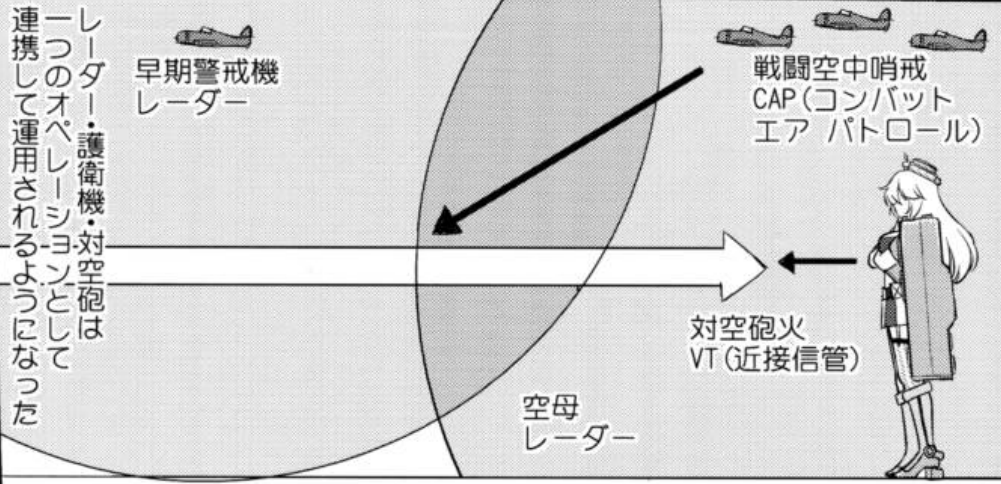
8時30分に米軍機が引き揚げると日本は71機がエセックスの空母部隊に反撃に向かった

やられっ放しで済むか航空隊は仇を取って来い

やっとなかっってきたネ ジャップども



アメリカは新たな空母を守るため対空防御システムもさらに進化させていた

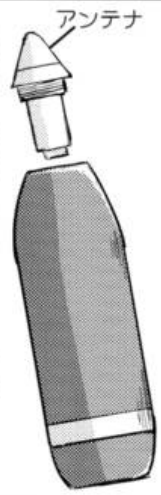


レーダー・護衛機・対空砲は一つのオペレーションとして連携して運用されるようになった

すべての情報は空母に置かれた戦闘情報センター(CIC)に集めそこからCAPの戦闘機を誘導しより効果的な迎撃を行った



迎撃機が撃ち漏らした敵機は次に新兵器「VT信管」を装着した対空砲網が待ち構えていた



現代では標準となったVT信管は対空砲に革命をもたらした電子機器でアメリカは航空機から艦艇を守るため原子爆弾開発に匹敵する予算と技術者を注ぎ込んで開発した

遠くを高速で飛ぶ飛行機は中々弾が当たるものではなく対空砲は攻撃進路を邪魔することを目的としていたが



これまでは砲弾に時限信管を取り付けて一定の時間で爆発させたので有効範囲やタイミングが限られていた

VT信管は弾自体が電波を出しながら飛んで途中で近くに何かあれば反応して爆発するので

飛行機が来る方向に発射するだけでよく命中率は数倍、数十倍になり弾幕の威力は飛躍的に向上した

防御システムの効果はできめんに現れた

11時50分 艦爆隊24機中19機喪失

12時04分 艦攻隊14機全滅

護衛の零戦は2機喪失

戦果はゼロ

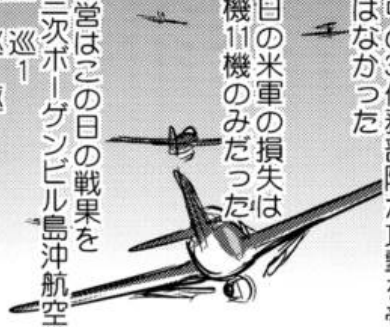
攻撃部隊は艦艇に全く被害を与えることが出来ないまま壊滅した



日本は夕方になると追撃で21機が薄暮攻撃に向かったがすでに米空母はギルバート方面に向かい哨戒中の39任務部隊が攻撃を受けたが損害はなかった

この日の米軍の損失は航空機11機のみだった

大本営はこの日の戦果を『第三次ホーゲンビル島沖航空戦撃沈 巡1 大破 巡1 駆5 中破 戦1 空母2 撃墜2』と発表した



ハルゼーの果敢な攻撃による成功は  
一ミッツに自信を与えた

空母だけで有力な  
地上基地を叩けるかという  
果てしなく続けてきた論争に  
結論を出してくれた

これ以後アメリカの空母運用は  
さらに大胆さを増していった



11月12日  
すでにグダグダになっていたが  
古賀長官は

『303号作戦』**終結宣言**  
を行った

損害も大きい  
戦果も大きかった

これでしばらくは  
敵の攻勢も遅れるだろう

減少したらパウルの航空隊を  
補充するために千島方面などから  
航空隊を引き抜いて進出させた

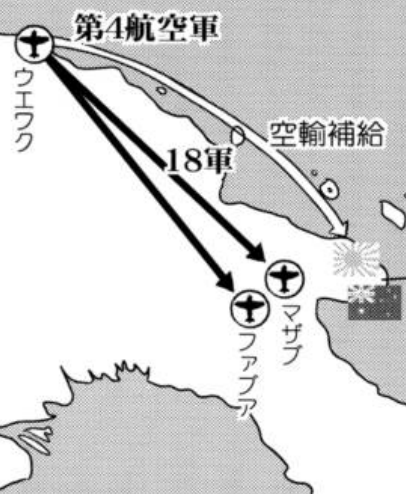


「航戦に戻ってきた航空隊は  
機体の7割、搭乗員の5割を失い  
壊滅していた」

なんてこと…



陸軍は海軍が『303号作戦』で  
ブーゲンビル島の周辺しか攻撃せず  
ニューギニアには航空支援を全く  
行わなかったため  
もうあてにせず



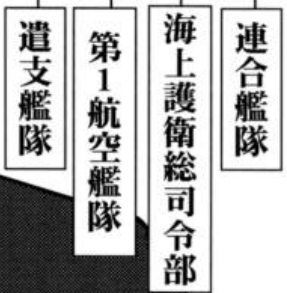
弱体化していたウエワクの  
第4航空軍を中国方面から  
航空隊を回して149機まで増強し  
独自に前線の攻撃支援と空輸を続けた  
航空隊は奮戦し戦果も上げたが  
11月末には93機へと減少していた

# 海軍に二大戦略あり(永野軍令部総長)

一つ、連合艦隊による『敵艦隊撃滅』  
一つ、海上護衛総司令部による『海上交通保護』

11月15日  
二大戦略の一方を担う  
『海上護衛総司令部』が発足した  
全ての鎮守府と警備府  
第1及び第2海上護衛隊を隷下に置き  
司令長官にも海軍の重鎮である  
及川古志郎元海軍大臣を指名し  
扱いは連合艦隊と同格とした

## 軍令部

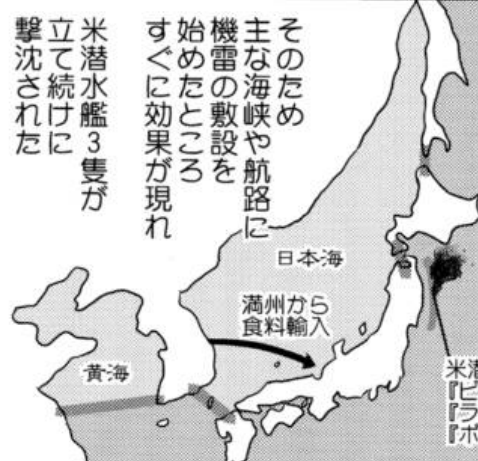


さて  
どうした  
もんか



だが肝心の主力戦力は  
全部合わせても旧式駆逐艦15隻  
海防艦18隻という貧弱な状態だった

米軍潜水艦は43年になると  
一部が日本海や黄海へも  
侵入して攻撃する  
ことがあった



そのため  
主な海峡や航路に  
機雷の敷設を  
始めたところ  
すぐに効果が現れ  
米潜水艦3隻が  
立て続けに  
撃沈された

一発1万ドルの  
魚雷もつたいナイ  
……

以後終戦近くまで  
侵入してくる潜水艦もなく  
安全に航海できる日本海は  
『天皇の浴槽』と呼ばれた



及川長官はこれに目をつけ  
機雷で南方まで自由に航行できる  
封鎖海域を作る案を出した

船団ごとに  
護衛を付けるには  
全く足りない

機雷で封鎖できない所は  
船と電探と哨戒機を配備し  
潜水艦の侵入を防ぐのは  
どうだろう

結構な考えとは  
思いますが膨大な数の  
機雷が必要になります

言っても始まらない  
やれる分だけでも  
やってみよう

だが軍令部の反応は冷ややかだった

機雷の在庫は  
対ソ連用なので  
出せません

玄関がもう燃えてるのに  
台所用の水だからと  
掛けないバカが居るか

機雷などそんな  
有効なものではない

軍令部第二部(資材)  
変人参謀黒島電人部長

電探は製造が遅れてる上に  
軍艦を最優先してますので  
いつまでに回せるとは  
約束できません

仕方ない  
配電工事だけでも  
先に取り掛かるう

機雷は  
海上輸送を重視する海軍省が  
口を利いたため軍令部も  
結局出すことになったが

二大戦略というのは  
掛け声だけなのか

整備や船の手配などで  
実際の設置は数ヶ月経っても  
遅々として進まなかった

衛参謀  
護部大  
上司令  
海司井

12月15日には航空隊も編入されたが  
護衛任務の緊急性に驚いて特訓を  
始めるといふ白紙スタートだった

良かった  
今日はタンカーの  
マークがないな

海上護衛総司令部は  
毎日の沈没報告にタンカーの名前が  
ないことを祈るのみだった

(新)  
ガングタリウ作戦

マーシャル諸島  
ギルバート諸島  
ナウル島

11月19日  
米軍のもう一つの  
侵攻ルート

中部太平洋方面の  
作戦が開始された

トラック島  
連合艦隊

る号作戦終了から  
わずか一週間後の  
ことだった

カトホイル作戦  
(進行中)

南西太平洋方面  
司令官  
マッカーサー

中部太平洋方面  
司令官  
スプルーアンズ

南太平洋方面  
司令官  
ハルゼー

遂に決戦場に機動部隊が現れたので  
『乙作戦』丙作戦―第三法が発せられた

### 乙作戦

甲作戦 (千島)

乙作戦

- 第一法 (本州東方)
- 第二法 (南鳥島)

丙作戦

- 第一法 (ウエーク島)
- 第二法 (マーシャル)
- 第三法 (ギルバート)
- 第七法 (ソロモン)

- 第四法 (同時)
- 第五法 (同時)
- 第六法 (同時)

今度こそ  
決戦だ!

だがトラック島の  
空母には航空隊がなく

重巡は損傷して  
内地へ戻っており

戦艦は燃料がなかった



つまり  
那珂ちゃん達  
軽巡の出番ことね



今まで休んでた分  
しっかり働くのよ

ギルバート・マーシャル  
には5つの航空隊  
合わせて14機が  
配備されていた



一方スプルーアンズ率いる  
第50任務部隊の航空兵力は  
正規空母6隻  
(エセックス級4)  
軽空母5隻  
インディペンデンス級  
で合計66機と圧倒的だった  
他に護衛空母5隻も随伴していた

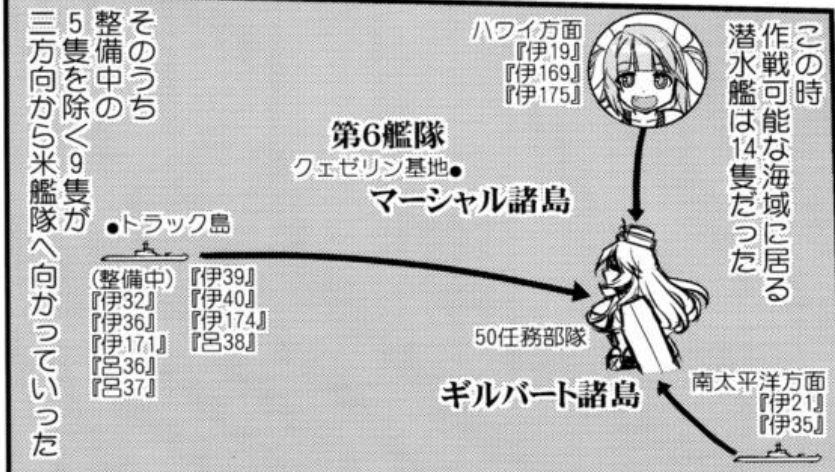


潜水艦の漸減要撃作戦も  
開始された



決戦なの!!

この時  
作戦可能な海域に居る  
潜水艦は14隻だった



まずは互いの空襲が交錯する  
『ギルバート諸島沖航空戦』が  
始まった

19日、20日、21日  
ギルバートとマーシャル空襲  
地上撃破多数

航空隊は連日出撃し  
発表戦果は『空母8隻撃沈』  
という驚くべきものだった

| 出撃  | 喪失 | 撃沈            |
|-----|----|---------------|
| 19日 | 13 | 2 空母1         |
| 20日 | 35 | 13            |
| 21日 | 14 | 7 空母2 駆1『第一次』 |
| 22日 | 7  | 3             |
| 23日 |    |               |
| 24日 | 19 | 9             |
| 25日 | 24 | 8             |
| 26日 | 13 | 1 空母2『第二次』    |
| 27日 | 16 | 6 空母2巡2『第三次』  |
| 28日 | 4  | 巡1            |
| 29日 | 10 | 6 空母1他2『第四次』  |

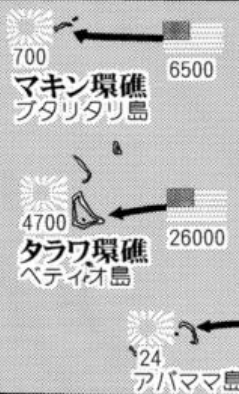
だが実際の戦果は  
全期間を通じて  
『インディペンデンス』に  
魚雷1本命中のみだった

瑞鶴さん 予想以上に  
戦果が上がってますね

ホーネット一隻でも  
大変だったのに  
そんな簡単に沈むかな...



11月21日  
米軍上陸部隊が  
島への侵攻開始



ガ島で金剛達の艦砲射撃に  
痛い目を見た米軍は自分達も  
戦艦を準備砲撃に使った

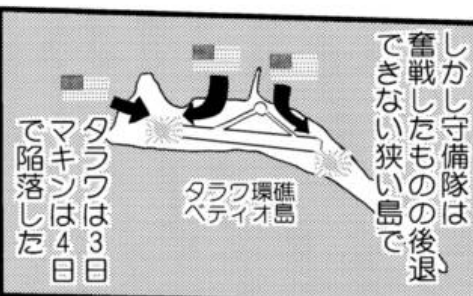


米兵を氷際で  
一方的に掃射し  
大損害を与えるなど  
予想以上の苦戦となった

タラフでは海岸で撃沈された  
輸送船『吾田丸』の残骸に  
潜んだ日本軍が

逆上陸部隊を送り込むわよ

第6駆逐隊しつかり着いてきなさい!



26日に増援部隊がクエゼリン島に集結した時にはギルバートの地上戦は終わっていた

それでも突入するのかしら?

さあ



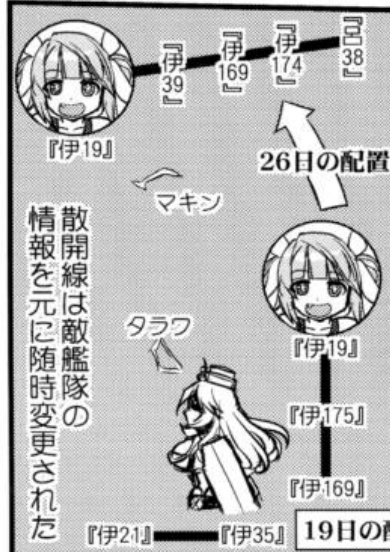
しかし守備隊は奮戦したものの後退できない狭い島で

タラワは3日マキンが4日で陥落した

11月25日 一方、潜水艦部隊はまずマキン島へ向かった『伊175』がカサブランカ級護衛空母『カスカムベイ』を撃沈するという戦果をあげていた



日本は散開線を決めて配置につかせるという方法で潜水艦を指揮した



だがこれを実行するには、定時に浮上して命令を受信し

次の場所まで浮上航行しなければならぬ



Uポートとの戦いで潜水艦対策を確立してる米艦隊の哨戒エリアで頻繁に浮上するのは自殺行為だった

ハンターキラー戦法  
索敵機(ハンター)はレーダーしか積めず攻撃機(キラー)と2機編隊を組んだ

周辺海域は常に哨戒機に監視されて新開発の波長の短いレーダーで潜望鏡すら発見されるようになっていた

海中でも深度が浅ければ磁気探知装置で発見され



44年の後半からはソノブイという投下型ソナーでさらに逃れるのが困難となった

位置が分かれば駆逐艦が駆けつけてソナーの死角となる真下や後方でなく前方へ投射する爆雷『ハッジホック』などで攻撃した





散開線は毎日のように  
変更の命令が出された

Dから  
西へ二百キロの  
F散開線へ  
移動せよ

しかし  
点呼に応じる潜水艦は  
次第に減っていった

ギルバート諸島から米機動部隊が  
姿を消して作戦終了が告げられると

沈没を免れた  
損傷した3隻だけが  
帰投した

攻撃に向かった潜水艦9隻の  
先遣部隊は壊滅していた



潜水艦出身のニミッツに言わせれば  
潜水艦のほういう使い方は  
全く間違ったものだった

人類の戦史上、主要な兵器が  
全く使い方を理解されずに  
運用された稀有な例が  
あるとすれば第二次大戦の  
日本の潜水艦がそれである



理由が分からなかった米軍は  
戦後永野軍令部総長に尋ねた

なぜ日本は我々の  
長いシーレーンを  
狙わなかったのか

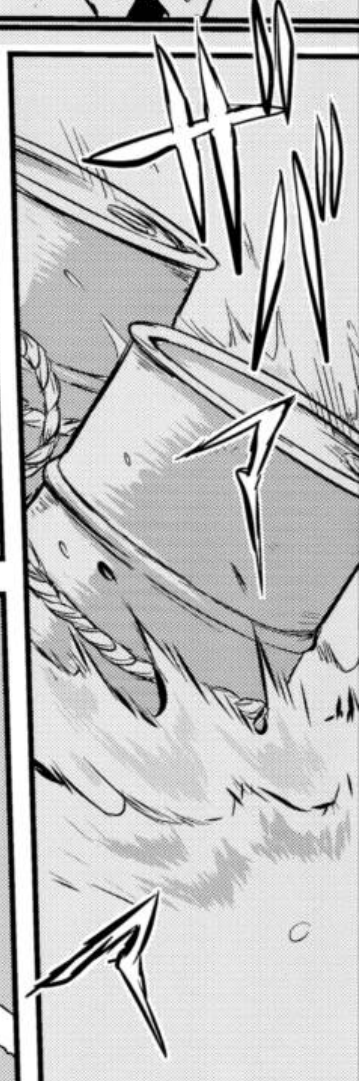
私は  
潜水艦のことは  
良く分からない



海軍の司令部に潜水艦出身は少なく  
花形の戦艦出身者などに比べ  
発言力も小さかった

欧州は  
次元の違う  
戦いです

さらに年功序列で上を占める者の  
古い経験では大戦中飛躍的に進んだ  
潜水艦を巡る攻防に対処できなかった



ギルバート諸島で  
Z作戦が戦われている頃  
『ブーゲンビル島沖航空戦』は  
る号作戦終了後も  
夜間攻撃に切り替えて  
続けられ

ラバウル

11/17 第一回輸送 875名

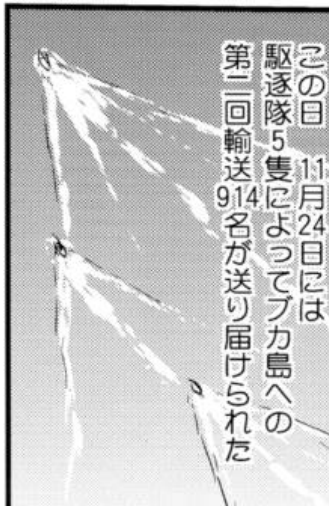
ブカ島

ラバウルに唯一残った  
第3水雷戦隊によつて  
増援部隊のネズミ輸送も  
行われていた

| 出撃    | 喪失 | 撃沈                |
|-------|----|-------------------|
| 13日   | 13 | 2 巡1駆1『第四次』       |
| 16日   | 16 | 5 空母3巡3他1『第五次』    |
| 17日   | 67 | 10 輸3             |
| 12月3日 | 35 | 10 空母3戦1巡2駆1『第六次』 |

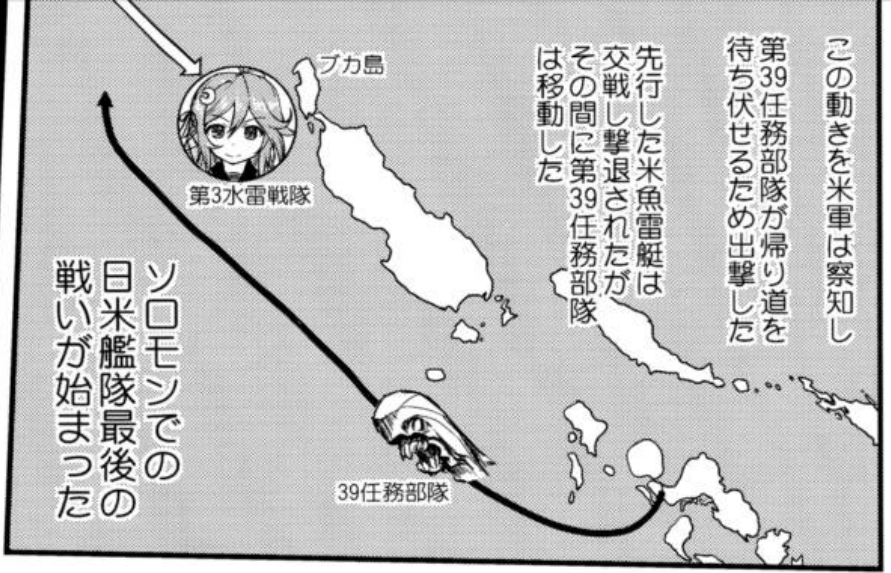
(実際は全期間で駆逐艦『マッケーン』撃沈のみ)

この日 11月24日には  
駆逐隊5隻によつてブカ島への  
第二回輸送 914名が送り届けられた



この動きを米軍は察知し  
第39任務部隊が帰り道を  
待ち伏せるため出撃した

先行した米魚雷艇は  
交戦し撃退されたが  
その間に第39任務部隊  
は移動した



ソロモンでの  
日米艦隊最後の  
戦いが始まった

司令官のパーク大佐は  
ペラ湾夜戦の  
ムースブルック中佐と  
同じ戦法を取るため  
5隻の駆逐艦を  
2箇所に分けて配置した



23時56分  
シーターで先を捉えた米軍は  
一隊(45駆逐群)が狙いすまして  
魚雷を発射

先行していた『大波』『巻波』は  
全く気付かないまま被雷し  
大波は4分で轟沈、巻波は傾斜した



続いて他の一隊(46駆逐群)が  
別の方向から『巻波』に集中砲火を  
浴びせた



前方何か戦いが  
始まっている!



後続の3隻は右へ回避したが  
その間にバラバラになった  
それを今度は  
最初の二隊(45駆逐群)が  
追撃した



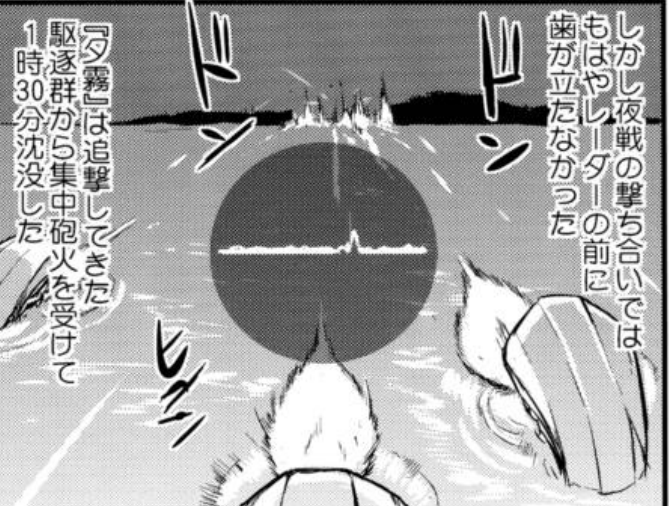
3隻の中で唯一、吹雪達の後、  
第11駆逐隊に配属されていた『夕霧』が  
炎の明かりを頼りに反撃した



第3水雷戦隊  
11駆逐隊の  
魂は受け継  
がれている!  
頑張っ  
て  
もっと  
撃て  
味方は  
何してん  
のよ



しかし夜戦の撃ち合いでは  
もはやシーターの前に  
歯が立たなかつた



『夕霧』は追撃してきた  
駆逐群から集中砲火を受けて  
1時30分沈没した

日本は駆逐艦3隻を撃沈され  
戦果なしの一方的な敗北だったが  
『撃沈 駆逐艦1魚雷艇2』と  
報告した

12月5日には上陸点タロキナに  
米軍の飛行場が完成したため  
ブーゲンビル島への駆逐艦輸送も  
これが最後となった

ガダルカナル進出以来米軍が死闘を  
続けたソロモン・ビルマルの海戦は  
ここに終わりを告げた

### セント・ジョージ岬沖海戦

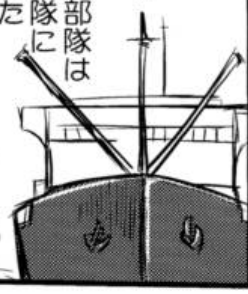


12月4日 古賀長官は米機動部隊が姿を消したことから撃退に成功したと判断し

『乙作戦』終結宣言を出した



警戒を解いた  
マーシャル諸島では  
航空隊の再編が始まり  
またギルバート逆上陸部隊は  
マーシャル各島の守備隊に  
転用する輸送が行われた



結局また戦う機会  
なかったわね

那珂ちゃんの  
せいじゃないし

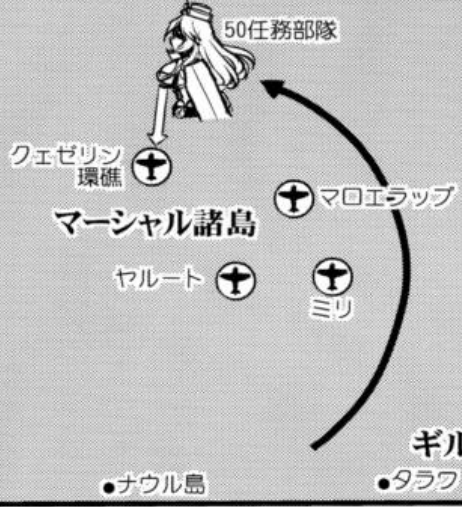


ところが  
古賀の判断と違い  
米機動部隊はまだ近海に居た

まだ余力があるわ  
アドミラル・スプルーアンス



第50任務部隊は洋上給油を受けた後  
北上してマーシャル諸島へ向かい  
12月5日 クエゼリン環礁の  
クエゼリン島・ルオット島に  
386機が双手に別れ  
奇襲を行った



それぞれの島に停泊していた  
『長良』と『五十鈴』が損傷したほか  
輸送船5隻などが沈没した



米軍は5機を失ったのみで  
奇襲は大成功だった

しかし今度は  
日本の偵察機も米空母を発見  
3回に渡って合計23機が  
攻撃を行った



攻撃隊は8機を喪失したが  
『レキシントン』に  
魚雷を一本命中させ  
初めてエセックス級を損傷させた

空襲を終えると第50任務部隊は  
一部をナウル島空襲に寄せた後  
今度こそハワイへと帰投した



日本はこの日の戦果として  
『撃沈 空母1巡2』を発表し  
『マーシャル諸島沖航空戦』とした

その後マーシャル方面は  
新たな航空隊が進出し  
航空戦力は99機まで回復した

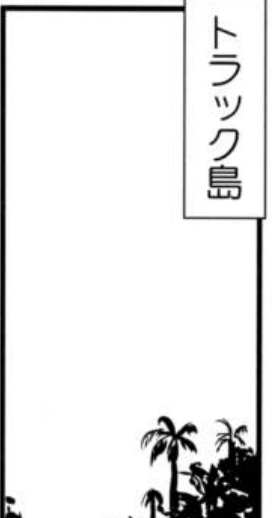
飛行機嫌い

戦おうにも機銃  
3丁しかないわ



残った兵員輸送は  
無事だった『那珂』と『雷』で  
12月10日まで続けられた

トラック島



え

決戦は  
勝つたの？

はい  
Z作戦と  
ボーゲンビル航空戦で  
アメリカ艦隊は壊滅  
我軍の大勝利です

恐れ多くも  
陛下から古賀提督に  
嘉尚の勅語も賜って  
内地はお祭り騒ぎですよ

連合艦隊航空部隊は  
今次ソロモン海域に於いて  
勇戦奮闘大いに  
敵艦隊を撃破せり  
朕深く嘉す  
これを嘉す

軍令部ではあまりに航空戦の  
大戦果が続くので  
不確実と記載のある分は除外し  
連合艦隊に注意を  
促していた

戦果確認に  
一層配慮されたし

宇垣纏の後任参謀長福留繁中将は  
これに怒って電報を打った  
中将の抗議には逆らい辛く戦果は  
そのまま通るようになった

現場に居ない軍令部が  
いかなる根拠で  
連合艦隊が報告した  
戦果を削除するのにか！

しかし軍令部第三部(情報部)の  
五課米大陸担当では  
全く信じていなかった

戦果はほぼ  
ないだろう

結局軍令部は  
報告の三分の一度が  
実数だろうと推測した

私と天津風も  
第3艦隊から  
異動になりました

何て  
いったっけ？

海上護衛総司令部

へー  
寂しくなるわね

そこで  
トラックを  
去る前に

空母随一の幸運艦  
瑞鶴さんと今晚  
お手合わせ願いたいです

何だその  
顔は





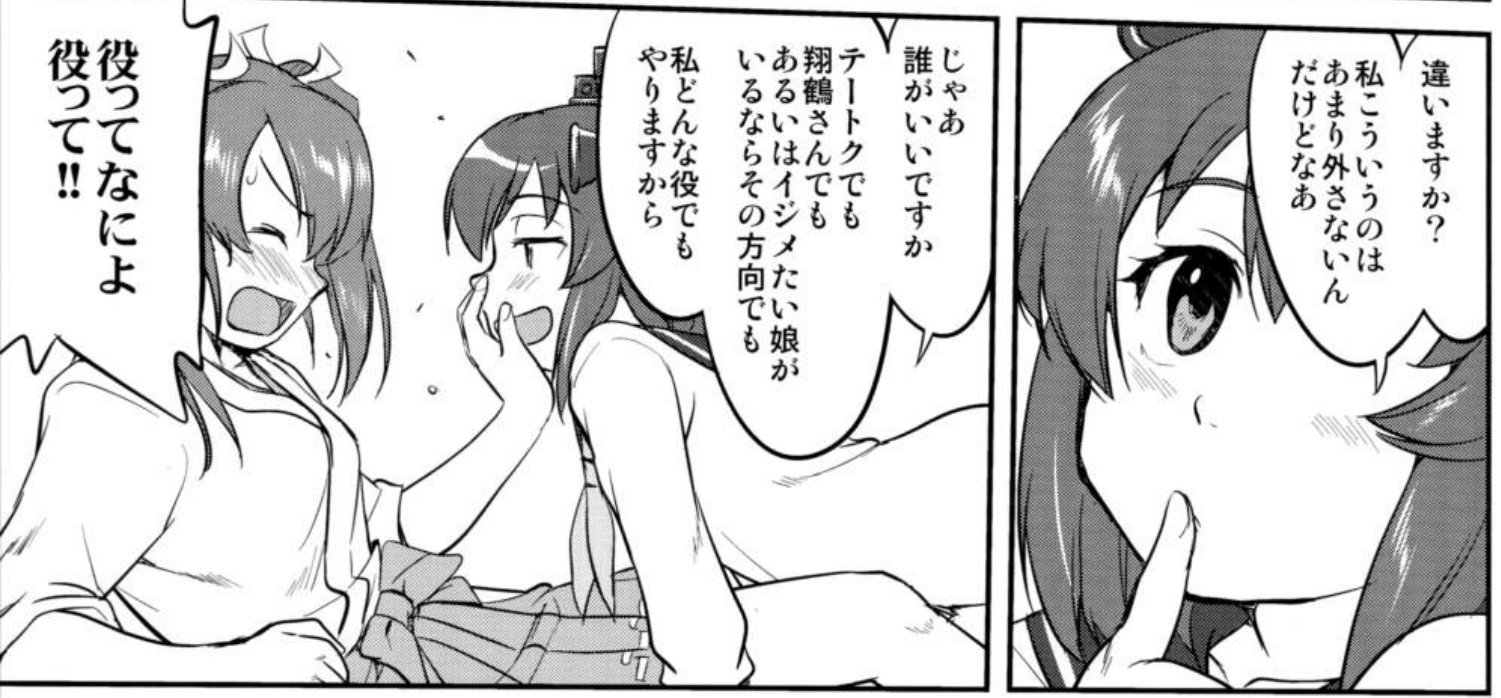
何で加賀さんが出て来るの!?

思えるか!

これを加賀さんだと  
思ってる

なおさら  
幸運艦の瑞鶴さんに  
ジंकクスを  
打ち破って欲しいです

じゃあ



役つてなによ  
役つて!!

じゃあ  
誰がいいですか  
テートクでも  
翔鶴さんでも  
あるいはイジメたい娘が  
いるならその方向でも  
私どんな役でも  
やりますから

違いますか?  
私こういうのは  
あまり外さないん  
だけどなあ



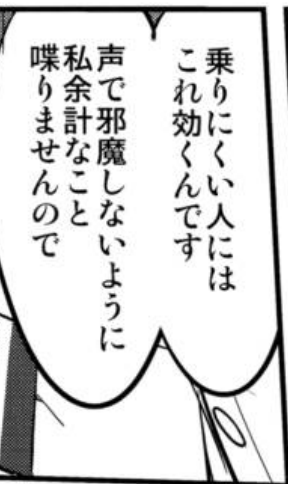
航海では  
隊列を乱さず  
戦闘では  
程よく猛り  
程よく臆し  
役割をこなす  
どの上官も任務を与えるから  
今どこにいて何をしているのか  
軍司令部でも把握できない時があるらしい

幸運艦なんて  
言われてるけど  
そうなるだけの  
根拠もある

マジメだ

雪風は





軍人は明日をも  
知れない身です  
遠慮せず何でも  
希望を言ってください

守秘義務で  
言えません

皆そんな願望まで  
雪風に話してるの？  
やっぱ艦娘同士とかが  
多いのかな

なんか  
付き合ってもいいからって  
気ばらせてくれる

そして今は  
こんなごときにも  
いたってマジメだ

でも言っとくけど  
笑わずに付き合う  
自信ないわよ

了解です

……じゃあ  
とりあえず  
加賀さんでいいよ

瑞鶴さんは  
ご自分の空想に  
集中してください

乗りにくい人には  
これ効くんです  
声で邪魔しないように  
私余計なこと  
喋りませんので

ではちよつと  
失礼します

ぎゃあ

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん



いえ…  
今や立派な  
一航戦です

五航戦

おんがっし  
おんがっし

加賀  
さん!?



あッ

でも  
その前に

ずる、



私のものに  
してあげます

あなたを



なご なご

頑張ってる娘には  
ご褒美が必要ですよ



別に…そんな  
つもりは…



あなたの  
いつもスカした態度が  
気に入りませんね

私の前では  
もっと情けない姿を  
晒させてあげます

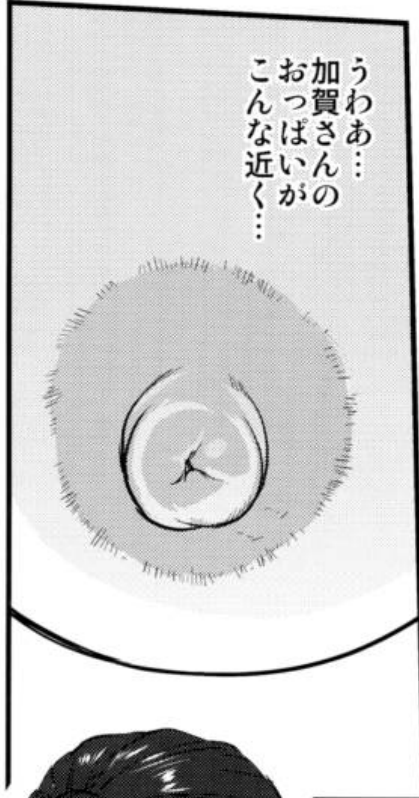


あ…瑞鶴さん  
乳首くらんで  
きた!



そう  
私を前にした時は  
そうやって

みつともなく  
いつも乳首を立てて  
おきなさい



うわあ…  
加賀さんの  
おっぱいが  
こんな近く…

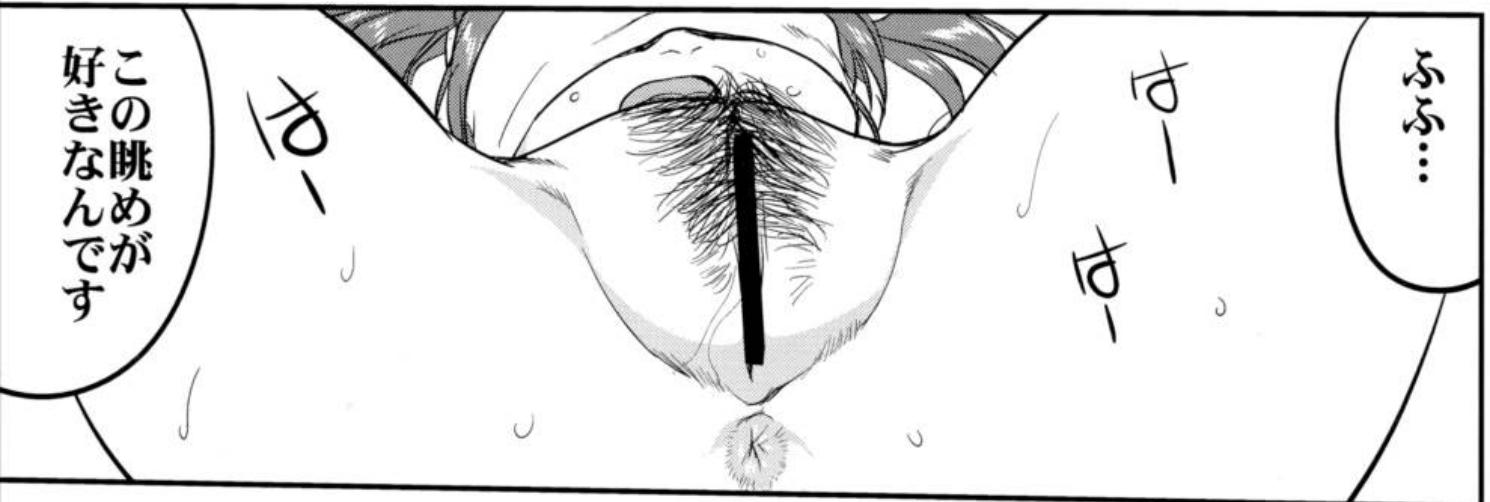


さあ  
してもらうだけじゃなく  
今度はあなたが先輩を  
気持ちよくする番よ



そうそう  
赤ちゃんみたいに  
一生懸命吸うのよ  
フフフ  
アナタのこんな姿  
お姉さんには  
見せられないわね

でも私にだけは  
見せていいのよ





準備はもう十分  
みたいですね  
そろそろ  
あなたの中に  
挿入らせて  
もらおうかしら

え...  
でも加賀さん  
女だし...



私と一つに  
なりたいですか

さあ



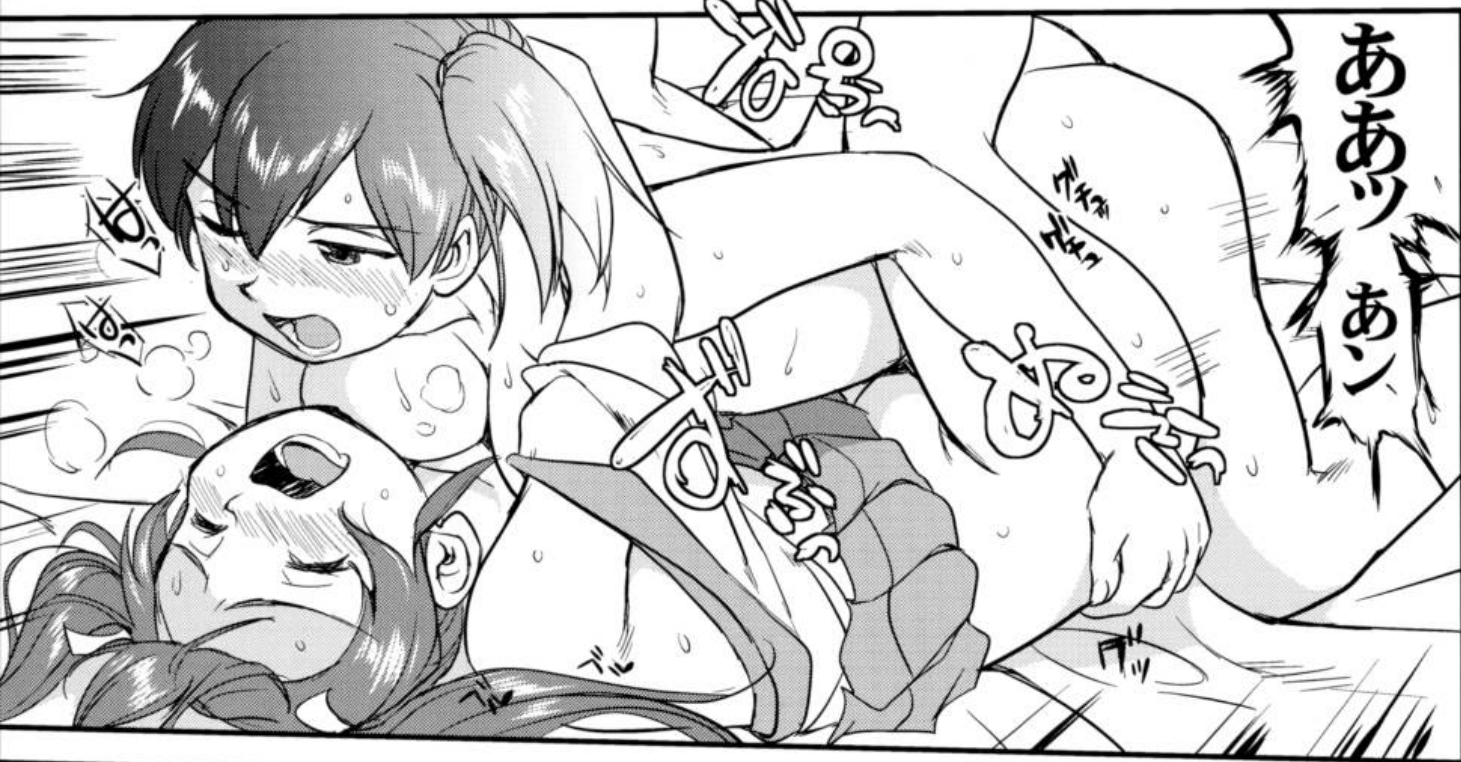
余計な  
心配です

あなたを  
犯すためのモノは  
ちゃんと  
付いてます



フッフフ  
抵抗は無いですか  
いい子です







下半身が  
しびれで  
とろけそう



人肌が  
気持ちいい…



仇を  
撃つてくれて  
ありがとう…

たとえ  
一時でも…



皆から  
言付かってきたこと  
があるんです

そうそう  
あなたに一つだけ



はー  
はー  
はま



あの瑞鶴さんも失神するほどイッてくれるなんて

良かった…



ふう



千歳さん空母になったんですね

雪風にとってこれがトラック基地との最後の別れとなった

水上戦闘機の出番も減っちゃったしね

12月7日  
『千歳』と16駆逐隊『天津風』『雪風』はトラックから内地へ向かった



私は明日トラックを発ちますので

瑞鶴さん武運長久を



アラ瑞鶴さんも

雪風にやられちゃったんですか？

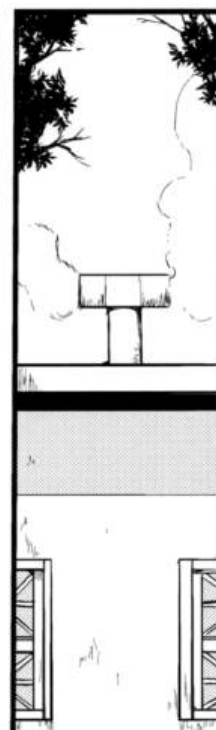


しばらく敵は来れないってのがホントならいいんだけど



大型艦が居なくなると寂しくなりますね

私と瑞鶴も順にトラックを出ますので大淀さん第3艦隊の旗艦はよろしくお願いします





は？  
何のこと

えっと……  
その文字のこと  
ですが

清ゼカキユ

なッ  
なによコレ

あははは瑞鶴も  
ちやんとそっちの  
欲求あったのね  
お姉ちゃんも  
安心したわ

あの  
性獣ーッ

不知火

ここを出た後の  
配属先が決まった

ニューギニアの  
ウエワクに新設された  
『第9艦隊』だ

瀬戸内海で  
一月ほど再訓練した後  
現地へ向かってほしい

ハッ……あの……ウエワクは  
絶対国防圏の外で  
艦娘も全く配備され  
ないと聞いてます

現在18駆逐隊は  
私と霞だけであり  
わずか2隻でどれだけ  
働けるか疑問も感じます

18駆逐隊ではない

不知火  
お前だけだ

……

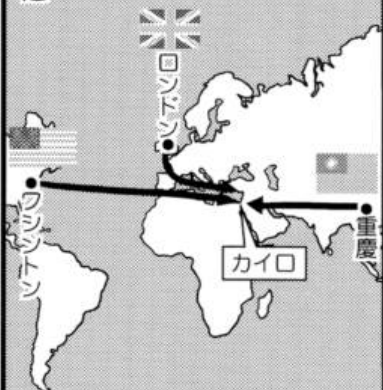
私一人だけが

ニューギニア東部の  
最前線に……？

11月22日  
ギルバート諸島での戦いが  
行われていた頃

ケベック会談で  
戦略を合意した米英は  
次に同盟国と

共同歩調を取るため  
まずはエジプトのカイロで  
蒋介石との三者会談に臨んだ



チャーチルは中国をこれほど  
対等に扱うことに反対だったが  
ルーズベルトの強い意向に  
譲歩した

中国が決めたことに  
フランスや欧州の国が  
従うのは難しいでしょう

蒋介石には  
やる気を失わないような  
待遇を与える必要がある

蒋介石は対等な同盟者として  
連合国ごとに戦闘地域を分ける  
ことを提案して



中国、タイ、仏印は  
『中国専管戦域』と認めさせていた

そのためタイと仏印の南方軍は  
米英から全く攻撃を受けず  
上層部は内地から料亭や芸者を  
呼ぶなど平穏な日々を  
過ごしていた

これが戦争なら  
軍人より楽な  
職業はない



アジアの米軍総司令官スティールウエルは  
専管戦域の問題上、中国内の戦略では  
蒋介石の下で軍事顧問(参謀長)とい  
う立場になっていた

延安で中国共産党を包囲してる  
数十万の軍を抗日へ向けるよう  
進言したが蒋介石は聞き入れなかつた



蒋介石は戦後のアメリカによる  
中国介入を警戒して一部兵を  
インドへ空輸させ最新の装備や訓練は  
施されたものの専管戦域を盾に  
指揮は中国人将軍に執らせた



ピーナツ野郎(蒋介石)は  
直感で戦争をしている  
事態は破局的だ

二人の関係はどんどん険悪となり  
44年10月にスティールウエルは  
蒋介石に解任・更迭された

11月26日までの5日間で  
蒋介石の権力の絶頂と言うべき  
カイロ会談が終わり  
『カイロ宣言』が示された

- 日本の無条件降伏
- 満州・台湾・澎湖諸島の中国返還
- 朝鮮の独立



蒋介石は更なる援助に加え  
援蒋ビルマルII作復活へ連合軍の  
ベンガル湾上陸作戦を取り付け  
(たと思つて)満足して去つた

日本は憤慨した

もともと『暴支膺懲』  
(調子に乗つて中国を懲らしめる)  
というスローガンで日中戦争を拡大  
してきた日本にとって

やがて!

負け続けの中国が米英の尻馬に乗つて  
こんな要求を宣言するなど  
到底許しがたいことであつた

中国戦線では、  
太平洋の絶対国防圏の強化へ  
精鋭5個師団を転用する前に  
積極防御策として一撃を加える  
『常德殲滅作戦』が行われた

### 常德殲滅作戦

1943年11~12月



作戦は成功に終わったものの  
中国軍はケベック会談後に  
強化された米第14空軍の  
航空支援を受けるようになっており  
予想以上の苦戦を強いられた

さらにカイロ会談と  
常德殲滅作戦中の11月25日

その米空軍によつて  
初の台湾空襲が  
行われた



空襲自体は  
29機の小規模なものだったが  
同地域の爆撃機の航続距離内には  
北九州も入っており  
大本営は大きな衝撃を受けた

陸軍はここに至って  
まず全力を挙げて  
中国を叩く決意を固めた

北京  
(共産党ゲリラ  
跋扈中)  
洛陽  
荊州  
南陽  
南寧  
採用された服部卓四郎参謀の案は  
中国を主要鉄道沿いに北京から仏印まで  
南北2400キロに渡って掃討戦を行い  
近辺の飛行場を一掃し  
南方資源地帯まで海路がタメなら  
陸の輸送路を繋ぐという大作戦だった



米軍はしばらく動けない  
という海軍の判断を  
信じたのか

陸軍は予定していた  
精鋭5個師団の  
南方転用を中止し  
一号作戦へ投入した

### 1943年の 陸軍兵力



絶対国防圏の強化は  
満州の関東軍からの転用で  
行われることになった

さらに中国に打撃を与える方法として  
再び活発になってきた援蒋ルートを通  
出発点のインドまで攻め入って元から断つ  
という南方軍が提案していた『ウ号作戦』  
にも準備命令が出された

国民の戦意高揚に  
こちらの方面で  
何か大きな勝利でも  
得られないものか

牟田口がかねてから  
準備していた作戦が  
あるからやらせて  
やって欲しい

この作戦は  
ビルマ方面軍下の15軍司令官  
牟田口中将が主張していたものの  
これまでは補給の困難さから  
無謀だと却下されていたものだった

南方軍総司令官  
寺内寿一元帥

※年度1番目の作戦=1号作戦

この戦争は  
オレが始めたような  
ものだ

## 牟田口の 口癖であった

満州事变から4年間に  
戦火のなかつた日中間に

北京・盧溝橋での発砲事件を  
切掛に軍同士の衝突にまで  
踏み込ませたのが現場の  
牟田口司令官だった

本当にやって  
よろしいか!?

やって  
よろしい

第三大隊長  
一木清直少佐  
(後にガダルカナルで戦死)

今4時20分  
断然戦闘開始して  
よろしい間違いない

支那駐屯歩兵第一連隊長  
牟田口廉也大佐

インドまで攻め込めば補給基地を叩き  
あわよくば独立運動を刺激して  
イギリスを混乱または脱落させるという案は  
ポーリスに協力を約束していた  
東條も気に入った  
ポーリスも強く望んで  
6000名のインド国民軍を率いて  
作戦に参加することになった

陸軍の相次ぐ大作戦によって  
日本は44年の軍事費の過半をアメリカ以外  
との戦いに投入することになった

### 臨時軍事費配分

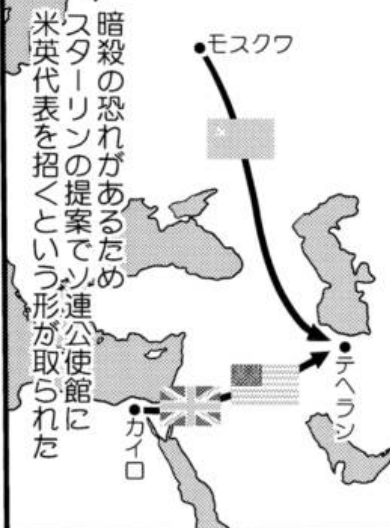
|       |     |
|-------|-----|
| 1942年 |     |
| 内地    | 75% |
| 中国    | 8%  |
| 南方    | 7%  |

|       |     |
|-------|-----|
| 1943年 |     |
| 内地    | 67% |
| 中国    | 14% |
| 南方    | 11% |

|        |     |
|--------|-----|
| 1944年  |     |
| 内地     | 40% |
| 中国     | 38% |
| (一号作戦) |     |
| 南方     | 16% |
| (ウ号作戦) |     |

大陸と太平洋2方面を増強するため  
国民の招集兵動員は増え続け  
産業の穴を埋めるために中学校以上の学生を  
常時軍需工場に配置する方策が取られた

11月28日 蒋介石が帰った後  
米英首脳はイランのテヘランへ移動し  
本命のソ連との会談に臨んだ



暗殺の恐れがあるため  
スターリンの提案でソ連公使館に  
米英代表を招くという形が取られた



二人が直接  
スターリンに  
会うのは  
これが初めてだった



革命を成し遂げた  
イデオロギイが  
完全に対立する  
国家の代表者



特にイギリスは  
レーニンの共産革命を  
潰しに掛かった  
保守王朝を  
代表する国である



人類史上これほどの世界的強国  
の代表が一堂に会したことは  
ありません

戦争の勝利と人類の未来は  
今このテーブルの3人に  
握られています



スターリンは  
本題に入りましょう  
と言ってます



会談は  
スターリンが求める  
ヨーロッパ第二戦線の形成  
(オーバーロード作戦)  
を中心に4日に  
渡って行われた

ともすれば  
意見が対立  
しがちになる  
貧乏二人(英露)を

金持ちの紳士(米)が  
取りなすという  
雰囲気です  
進んでいった



スターリンは想像より  
ずっと聡明で思いやりの  
ある人物のようです

リーヒ  
大統領  
米海軍参謀長

彼は現実主義者だ  
理想主義者のチャーチルより  
話が合う



大変まずい  
展開だ

ブルック  
英陸軍参謀総長

スターリンは  
人情というものを  
全く欠いている  
無慈悲な人間だ



夜には親睦を兼ねた  
パーティーも開かれた



ホスト役のスターリンは、  
ルーズベルトに満州の不凍港は  
ソ連のものだと言われ、機嫌で  
参加者に酒を注いで回った

キングは  
笑いながら  
それを見ていた

スターリンというのは  
面白い男だな



ブルック閣下  
あなたは会議で我々を  
批判ばかりしているが  
一度モスクワに来るといい  
そうすれば我々が  
悪い奴じゃないと  
考えを改めるだろう





うわー  
これみんな  
訓練待ち？

ええ  
発着艦の訓練だけは  
空母じゃないと  
出来ないのよ

でも増えるばかりで  
とても間に合わなくて  
猫の手も借りた  
くらいです

ごめんなさい  
この甲板じゃ  
発着艦訓練は  
手伝えなくて

いえいえ  
戦艦は決戦が  
お仕事です

龍田さん  
カイロ宣言の  
伝単見ました？

※伝単＝宣言文

みんなで見たらわよお  
なーにが無条件降伏だつての  
天龍ちゃんの仇もまだなのよ

陸軍は怒つて  
支那で大作戦に  
出るそうね

当然です  
ふふふ…ガツンと思い  
知らせてやらないと

案外陸軍さんは  
私たち海軍が先に  
アメリカを叩いたから  
焦つてるのかも  
しれないですけどね

肩身が狭くなつて  
手柄が欲しいのかな  
少しいい気味かも

きっと古賀テートクが  
陛下に勅語を賜つたのが  
妬ましいのよお

それも  
全くないとは  
言いきれませんね

どちらにしても  
次は中国大陸じゃ  
連合艦隊の出番は  
なさそうですね

海軍もインド洋で  
何かやるみたい

なに  
言つてるんです  
皆さん…

そんな場合  
ですか？

アメリカ  
ですよ

アメリカと戦争  
してるんです!!

世界一の  
大国を相手に  
してるんです

分かつて  
ますか

今から  
中国やインドを  
攻めるとか

何を  
言ってるんです！

百機やそこらの攻撃で  
アメリカの機動部隊を  
撃滅した!?

そんなこと  
ある訳ないじゃ  
ないですか!!

みんな

おかしく  
なつてしまったん  
じゃないですか!?



し：  
不知火は

この後一人で  
ニューギニア行  
きを命じられ  
てるから

ちよつと  
感情が  
高ぶってるの  
かもね

気持ちは  
分かります  
……



12月7日  
ラバウルで第11駆逐隊最後の一隻に  
なっていた『天津風』はカビエンの近くで  
任務中に『秋風』と衝突

修理のために内地へ戻り  
同時に第19駆逐隊に転入された

『第11駆逐隊』は解隊され  
その物語は終わった



神奈川県  
横須賀

海上護衛  
総司令部って

軍令部の  
すぐ近くにあるんだね

階級高い人ばかりで  
すごかったねー  
驚いちやった

そりゃあ  
『海軍の二大戦略』  
って言われたし

後方の海全部を  
守護るんだから  
大組織よね

私たち  
栄転よ栄転

あ  
天津風  
あの娘たち  
多分そうじゃ  
ないかな



本日より  
海上護衛総司令部の  
指揮下に入りました

第16駆逐隊の  
『天津風』です

ば

同じく  
『雪風』です



わあー  
スゴイ!  
陽炎型駆逐艦だ

私たち  
駆逐艦の試験に  
不合格だったので

連合艦隊の水雷戦隊は  
憧れなんです!

あははは...  
ありがと

えっと  
本隊の方に  
挨拶したいんだけど  
どこかしら?





私達が本隊です

あなるほど

今はみんなの任務で出てるのね

いえこれで全員でっしゅ!! しむしゅ!!

全員って

10人くらいしかいないけど

全員でっしゅ



空母や駆逐隊は?

駆逐隊なら今日お二人が...

その二人空母ならここにいるわよ!

千歳さん!

ていうかトラックからずつと一緒だったじゃないですか

同じ冷や汗かいてませんか?

えっ?



えっと...こんな状態で今までどーやって海上全域の護衛を?

そうですね大事な輸送の「行き」だけは私たち海防艦の一人が護衛に付きます後はナシですね

えらい所に来ちゃった...?

1943年の石油消費563万トン 南方石油生産670万トン(うち国内輸送196万トン)  
1944年1月 日本の石油在庫 あと187万トン

どうも蛸壺屋です。

艦これ本5冊目に突入です。

予告で『あ号作戦(仮)』と謳ってましたが、何と全く届きませんでした。バックナンバーを振り返ってみると、おおよそ半年分で一冊というペースになっていて同じ密度で描けばだいたい同じページ数が掛かるということにやっと気づきました。ということで今回は1943年8月から12月までの5ヶ月分となっています。次こそあ号作戦に辿り着きたいところです。

話が進むにつれ軍人や政治家の登場が増えています。実在人物の似顔絵は苦手な方だと思ってましたがこのシリーズで描いてるうちに意外と楽しくなってきました。

今回からフル出場のエセックス級とインディペンデンス級の作画は迷ってましたが、もう吹っ切れたのでこの路線でガンガン行きたいと思います。

しかしヘルキャットが登場してからはアメリカ海軍機にやられっぷりがひどいですね。

あと、作画や情報の間違い修正は最終巻にまとめてなどと言ってましたがいつになるか分からないリアルタイムで発覚した分は更新したいので専用ページを作りました。よかったら見てください。

『テートクの決断フォローページ』

<http://takotuboya.jp/teitoku/syuusei.html>

ではまた次回お会いしましょう。

誌名 テートクの決断 絶対国防圏

発行者 蛸壺屋

発行日 2017年8月13日

印刷所 大陽出版

☞Scans by Super Shanko☞

ご意見ご感想は下記アドレスまで

URL : <http://takotuboya.jp>

E-Mail : [tk@takotuboya.jp](mailto:tk@takotuboya.jp)

## 登場艦娘

|    |    |     |     |
|----|----|-----|-----|
| 金剛 | 榛名 | 大和  | 武蔵  |
| 長門 | 山城 | 扶桑  | 山城  |
| 伊勢 | 加賀 | 瑞鶴  | 翔鶴  |
| 鳳翔 | 瑞鳳 | 千歳  | 妙高  |
| 羽黒 | 高雄 | 愛宕  | 鳥海  |
| 摩耶 | 鈴谷 | 筑摩  | 龍田  |
| 北上 | 大井 | 川内  | 五十鈴 |
| 長良 | 那珂 | 大淀  | 阿賀野 |
| 鹿島 | 卯月 | 吹雪  | 白雪  |
| 初雪 | 叢雲 | 響   | 雷   |
| 初風 | 時雨 | 満潮  | 五月雨 |
| 秋雲 | 夕雲 | 長波  | 不知火 |
| 沖波 | 早霜 | 占守  | 択捉  |
| 雪風 | 天霧 | 夕霧  | 天津風 |
| 秋風 | 伊8 | 伊19 |     |

## テートクの決断 絶対国防圏

TAKOTUBOYA  
Adult Only

|         |                                    |
|---------|------------------------------------|
| テートクの決断 | 昭和16年の敗戦 (1941. 7. 28~1941. 12. 8) |
| テートクの決断 | MIDWAY (1941. 12. 8~1942. 6. 7)    |
| テートクの決断 | 鉄底海峡 (1942. 6. 8~1943. 2. 7)       |
| テートクの決断 | ラバウル1943 (1943. 2. 8~1943. 8. 25)  |